

公益財団法人 海外子女教育振興財団
AG5 事務局 宛

2021 年度 AG5 報告書

1. 報告者	
(1) 学校名	パリ日本人学校
(2) 氏名	水野 団
2. 実施体制	
研究主任：水野 団 研究推進委員：（校長）小野江隆・（教頭）酒井正彦 （小学部）袴塚正之（小学部）貴島涼平（小学部）阪田修世（中学部）鈴木勲 研究員：（小学部）夫婦岩由紀・手塚英海・原田祐子・長谷川洋 （中学部）藤井健・石黒豊・其田由貴子・志賀一友	
3. テーマ	
日本人学校における高度グローバル人材の基礎的資質形成のためのプログラム開発とそのための教員研修のプログラム開発	
4. 目的と概要	
昨年度に引き続き、日本人学校の教育の質を高めることを目的に、高度グローバル人材の基礎的資質形成に資する総合学習について、探究学習を核にした単元開発を実施し、汎用性の高いプログラムの開発に繋げる。 研究主題を「世界で活躍するグローバル人材の育成」と設定し、研究の大きな柱を、次の4つとする。 ①本校におけるグローバル人材育成に必要な資質・能力とは何か。 ②探究単元の開発推進のための対話的で深い学びの実現と学級づくり。 ③単元づくり（探究単元）のためのカリキュラムマネジメント。 ④汎用性のある小中一貫探究単元の開発（IBの理念を参考）。	
5. 今年度実施した取組み（※研究会や出張等は日程も含め記載してください）	
4月中はコロナ禍による学校閉鎖。それ以降は通常登校などが続いたが、交流活動などの学習は通常通りに行うことは困難であるため、試行錯誤しながら活動を進めた。4月はオンラインにて学習配信した。 今年度の小中一貫の共通のテーマは「今とオリパラとわたしと未来」とし、年間を通したオンライン講座を計画した。講座は探究的な学びをスタートさせるにあたり、学校の意図した動機づけとなっている。テーマにかかわる内容を専門的な方から直接聞き、双方向でのやりとりをすることで、子供の興味関心が高まっていく様子が見られ、今後の活動に大きく関わっている。また、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④交流⑤まとめ・表現といった探究のプロセスの第一段階として、今後の活動の進め方を確認する場とすることができた。 【オンライン講座に参加】 4月 小3～小6 9:00～10:30 中1～中3 9:00～10:30 南極地域観測隊教員派遣（パリ日本人学校派遣教員） 水野 団 講演「南極を知れば地球が分かる」を通して、「学びの地図」の書き方を確認する。	

5月3日(木) 小1～中3 9:40～11:30

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

スポークスパーソン 高谷正哲様 講演「東京オリンピック・パラリンピック」

6月2日(水) 小1～中3 9:00～10:20

ロサンゼルスオリンピック体操金メダリスト 具志堅幸司様 「今とオリパラとわたしと未来」

10月6日(水)公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

警備局 小島良一様 「フラワーレーンプロジェクト」

12月10日(金)9:00～11:00

東京オリンピック陸上女子1500m 出場 ト部蘭様 小1～中3

【学びの地図作成】

オンライン講座を聞いて、メモしたことをもとに「学びの地図」を作成。

- ・はじめて知ったこと、興味をもったこと
- ・疑問に思ったことや質問したいこと、調べてみたいこと
- ・今、すぐに自分ができること、考えるべきこと
- ・こんな未来にしたい、なってほしい、こんな生き方をしたい

「学びの地図」を作成することで、自己の理解を組み立てていく。

- ・課題を見つける力 ・課題解決していく力
- ・疑問を見つける力 ・学び方やものの考え方を身につけていく力

【新聞作り・新聞交流会】

2学期にはコロナ禍による時間割の時程変更などがあったが、その中で新聞作りや新聞交流を行うことができた。多角的な見方やまとめる力、伝えるための方法を考える力、情報を収集し、選択する力（ICT の活用）、自身が課題設定し、事実や真実を見極める目、自身を見つめ直す機会、世の中に考えを伝えたり提言したりする力、探究していく力などが得られた。また、異なる視点や同意見の中から、新たな取り組みの発見へとつながっていき、具体的に何ができるのか、何がどのように変わる、自分の行動にどう働きかける、本当にそれでいいのかなど振り返り、考えていくための力・見直す力をつけ、世の中との関わりとの関係性を導き出していった。

【パリ日提言フォーラム開催】

2月に提言フォーラム①②を開催した。各ブロック（低・中・高・中学生）の概念やキーワードをもとに、様々な捉え方や考え方を通して、周囲との関係性や自己の生き方を考えたり、成長を実感し、課題や目標を発見したりできる場とする。

2月7日(月)パリ日提言フォーラムミニ部会(10:55～12:30) 小1～3年

パリ日提言フォーラムミニ部会(11:45～15:00) 小4～中3年

2月9日(水)パリ日提言フォーラム(8:50～12:30)全学年

【振り返り】

提言フォーラムを振り返り、再度自身の考え方や他者の考え方について見つめ直し、これからの生活に生かしていく事柄を考えていく。

6. 今年度の成果・効果（※詳細に記載し、成果物があれば添付してください）

小学部低学年

- ・随時、ワークシートにウェビングマップを活用してきたことで、3年生以上で扱っている「学びの地図」の基本作りとしても役立った。また、言語化を通して、誰かに伝える、伝わるということ意識することができた。
- ・学校と徒歩圏内のサンカンタン池の継続的（春夏秋冬）な観察をすることで、同じ環境が季節によってどう変わっていくのかを体感することができた。また、「へーんしん」に焦点を当てることで、どのように変化しているのかを探すという目的意識をもって観察をすることができ、さらに、児童の「なぜ」「どうして」の気持ちを生み、その課題について調べたい、知りたいという主体的な学びのきっかけを作ることができた。
- ・学習内容を身に付けることを目標にするのではなく、学ぶきっかけとなる活動を計画し、「みんなへーんしん」という概念をもとに主体的な学習を進めることができた。
- ・日頃の授業の中で身に付けたわけをそえて話すことができる力によって、理由や根拠を書いて伝えることを日常化することができた。

小学部中学年・高学年

- ・オンライン講座では、外部の講師の生きた経験を通して、資料を見るだけでは伝わらない感情を追体験することができた。また、児童の知的な興味・関心を高め、探究学習意欲を高揚させるきっかけとなった。
- ・「学びの地図」づくりを経験することで、教科の学習で単元のふりかえりを行う際などに必要な情報をノートに整理して知識を定着しようとする態度の育成にもつながった。さらに、「学びの地図」で思考を可視化することで、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」などの探究のスパイラルを作り出すものになった。
- ・新聞交流によって、新しい知識を獲得や新たな課題を生み出すきっかけを作ることができた。また、表現の仕方の多様性に気付くこともでき、より興味関心が高まり、その後の探究活動に繋げることもできた。
- ・日本とフランスの文化や習慣の違いに触れ、「なぜこのような違いが生まれるのだろう」という批判的思考を働かせることができた。

中学部

- ・今年度も継続して「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「交流」「まとめ・表現」という、探究のプロセスを意識しながら取り組むことができた。一昨年度からこれらの探究のプロセスを継続してきたことで、生徒が主体的に自己の学びを深め、また生徒同士が互いの学びを深める働きかけができるようになった。それは、校内研修を通して、担任や教科担当が研究のねらいを共有し、見通しをもって生徒に働きかけたことと教科の特性を生かしながら、教科横断的に様々な場面で生徒に働きかけてきたことが大きいと考える。また、中学部に関わる教師一人一人が探究の学習がスムーズに進むよう中学部生徒の資質や能力を考え、授業改善に取り組んだり、具体的に「わけをそえて話すことができる生徒」を育む授業づくりに取り組んだりしてきたことも大きな要因と考える。
- ・学校として、年度当初より「今とオリパラとわたしと未来」という大きなテーマを設定して取り組むことを決めたため、学部だけではなく多くの学年と見通しをもって交流することができたと思う。
- ・コロナ禍であり制限は出たものの、形態を工夫し、学びを止めずに今年度だからできる学びに学校が一丸として取り組むことができた。これは、一昨年度、中学部は「フランスとわたし」、昨年度、「今

と科学とわたしと未来」、本年度「今とオリパラとわたしと未来」というように、テーマが変わっても本校の探究単元を展開することができるということに他ならない。「フランスに住んでいる」という共通の視点で始まる学習を3年間継続して実施できたことは、生徒に学び方やその理解の深め方、その上でより良く課題を解決しながら、自己の生き方を考えていくための資質や能力を高めていくことの見通しをもたすことができた。また、複数年度にわたって探究学習の大きな流れを生徒が把握して学習に臨めたことで、編入者に生徒が学習の進め方を教示し合ったり、新しくこの探究学習に携わる教師も見通しと指導方法の共有ができたこと、探究学習の学習方法や指導方法の汎用性を高めることにつながられた。

全体を通して

- ・児童生徒は学び方について知り、その上で課題をよりよく解決しながら、自己の生き方を考えていくための資質や能力を高めていくことができた。また、今後のさらなる探究活動の見通しをもつことができた。
- ・提言に向けての活動では、児童生徒にとって未知の領域である概念学習を取り入れることができた。それによって児童生徒は学び方や学ぶ理由などの学習に対する新たな見方や考え方をもちことができた。
- ・「提言フォーラム」を通して、根拠を明確にしながら自分の考えを他人に伝えることができた。さらに、質疑応答を通して、新たな考え方の発見やそれぞれが批評的な感覚を得ながら活動することができた。また、知識だけでなく、発想の豊かさを認め合う姿が素晴らしかった。
- ・教師が探究のプロセスを意識しながら取り組むことができた。全ての学年で、探究の学習がスムーズに進むよう、授業改善の研究に継続して取り組んだり、具体的に「わけをそえて話すことができる児童生徒」を育む授業づくりに取り組んだりすることができた。

7. まとめ

共通のテーマをもち、「意図した動機付け」「学びの地図作成」「新聞作成」「新聞交流」「提言に向けての交流」「パリ日提言フォーラム」という流れを今年度は検証し、継続していくことで確認ができた。今後、テーマが変わっても同様の活動が可能であり汎用性をもてたと考える。

コロナに関係なく、オンラインを駆使することで、講師の幅が広まった。次年度以降も、今年度と同様以上の活動を行えるように、教師一人一人の資質を高めていきたい。

8. 次年度の計画

- ・今年度までの取り組みを次年度も、「今と●●●と私と未来」の●●●の部分を変え、各教科と総合的な学習の時間（探究）とを横断的に扱う関わり方については継続していく。
次年度は、今後パリでオリンピック・パラリンピックが開催されることから、今年度と同様のテーマで活動していく。
- ・コロナ禍の状況にもよるが、活動の仕方の工夫をしていくとともに、フィールドワークでの体験的な活動や情報の収集を積極的に取り入れていく。

9. 所感

日本人学校特有ではあるが、毎年教師の異動や児童生徒の転出入が1／3近くある。特に児童生徒は、学期途中での転出入も多い。途中転入の児童生徒への概念学習についてのきめ細やかな説明を意識してきたことで、提言発表までの準備が間に合わないまでも、質問したり自身の考えを伝えたりすることができた。今後も継続した取り組みができるようなシステムの構築に努めていきたい。

※記入欄は適宜拡張してください。

令和 3 年度の取り組み

（3 年次計画 3 年目）



（小学部 6 年生 学びの地図作成の様子）

令和3年度パリ日本人学校 研究

主題 世界で活躍するグローバル人材の育成（3年計画3年目） （高度グローバル人材育成事業拠点校）

～副主題 「対話的な深い学び」による授業改善を通して～

提携団体 AG5

文部科学省 I B 教育推進コンソーシアム

対話的な学び…基盤をつくり 深い学び…活用する

1 令和3年度の研究について

昨年度同様、研究の大きな柱を、次の4つとする。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 本校におけるグローバル人材育成に必要な資質・能力とは何か② 探究単元の開発推進のための対話的で深い学びの実現と学級づくり③ 単元づくり（探究単元）のためのカリキュラムマネジメント④ 汎用性のある小中一貫探究単元の開発（I B の理念を参考） |
|---|

総合的な学習の時間から、探究の時間を生み出し、他教科・行事等との関連性を明らかにしてきた。教科横断を意識したカリキュラムとその活用を行い、対話的で深い学びの実現をめざす。

- ① については I B の視点を組み込むことにした（文科省の I B コンソーシアム協力校として支援をいただいた）。
- ②については、I C T 教育の積極的な推進を図り、タブレットや書画カメラ、プロジェクターを活用し、授業効率を高めたほか、様々な授業スタイルを可能にした。それにより協働的な学びを可能にし、発表の機会を増やすことができた。
- ③については、教科やすでに学校で実施してきた様々な行事等を効果的に配列し、探究科を生み出すための時数や関連性を持たせる工夫をした。同時にアウトリーチを意識し、パリ市やモンテニー市とのコラボを実現することで、人材確保、人脈の新たな構築が可能となった。
- ④については、当初は小学部では「水プロジェクト」、中学部では生き方やキャリア教育を視野に、「フランスと私」をテーマに取り組むことにしたが、2年目より、小中学部共通のテーマをもつことにした。そのことで、小中での共通の話題で講演依頼することや縦割り交流が可能となった。

2 研究主題の設定と研究の概要

昨年度より継続し、研究主題を「世界で活躍するグローバル人材の育成」と設定する。

（理由）

- 1 日本人学校・補習校に通うグローバル人材教育の最前線にいる児童・生徒を育てる。
- 2 AG5を推進し、海外ならではの本校の研究を発信する。
- 3 グローバル教育の研修を深め、帰国後は国内の同教育の中核となる教員を育成する。

(概要)

研究Ⅰ（日々の授業改革）

探究の学習がスムーズに進むよう児童生徒の資質・能力を高めるために、昨年の授業改善の研究を継続し、具体的に「わけをそえて話すことができる子ども」を育む授業づくり・改善に取り組む。

研究Ⅱ

授業や学校行事・校外学習・社会見学・施設見学などをⅠＢの観点で考察する。（配列、時期、意義等）

研究Ⅲ

探究的な活動では総合的な学習の時間を核に教科横断型の学習を計画的に取り入れ、深い学びを実現させる。

3 学校全体の探究学習の構想

パリ日本人学校における探究学習の位置づけについて（探究的な学びを可能にするには）

パリ日本人学校では、探究的な学びの実現に向けて、日常における日々の授業や年間の行事等、教育活動全般と結びつけ、探究的な学びを可能にするための基礎づくりを行ってきた。

探究的な学びに必要とされる力を分析し、日常の活動から意識的に身につけさせ、身につけた力を探究的な学びで生かすことが大切であると考えてきた。

小中で一貫して「わけをそえて話すことができる」を意識した授業づくりを進め、カリキュラムマネジメントに添い、授業および学びの機会をもつようにし、年間を通して、下記の能力の醸成を図った。

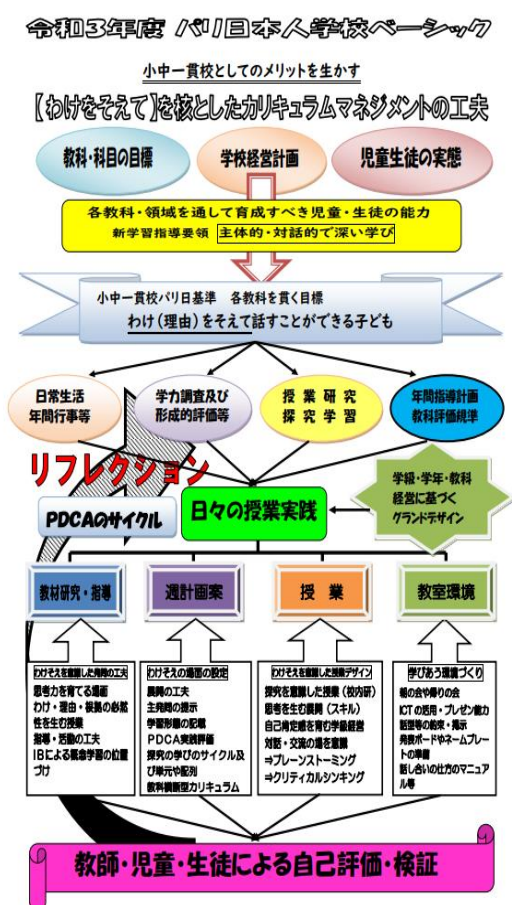
○「正解が一つでない課題」に立ち向かう力、課題をブレインストーミング等により最適化をし、論理的に考えを整理（論理的思考）して、その考えを発表（提言）（＝プレゼンテーション能力）する。

○日常の学びの中で、得られた情報を吟味し、批判的に施行する（クリティカルシンキング）。

○子供の興味関心のもととなる「きっかけ」「しかけ」のある活動を意識的に盛り込む。

○子供が自身の学びをイメージするために、ウェビングという活動を重要視し、つなげる・結びつける・広げるという活動を効果的に盛り込み、子供の脳を刺激し、深い学びへと誘う。

○子供の考えや課題の根拠や裏付け、共有するために、ICTを活用した学びのスタイルを推進する。



4 パリ日で考える「対話的な深い学び」を実現する児童・生徒の姿

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び

① 自分の思いや考えをもつ	②他者との交流をもとに、「ちがいがい」や「同意」、新たな気づきができる（比較）	③もっと知りたいという思いから、思考を広げ深めていく
①～⑦をサイクル的にしていくことで深い学びへとつながっていく	【対話的な学び】	④様々な人とのやりとりや本、文献などを通して得た情報を多様にしていき知識を身につける
⑦どのような場面でも、誰に対しても、思っていることを根拠をもって、分かりやすく伝える	⑥よりよい考えをもち、経験や今までの考えと比べる（自己の変容が分かる・ふり返り）	⑤まとめたり発表したりして情報を発信したり、情報を得たりする

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう学び

① 主体的に課題を発見し広げていく	②「なぜ」を意識し、解決へとつなげてく	③場面に応じた対応や見方、考えをもてる
①～⑥をサイクル的にしていくことで主体的な学びへとつながっていく ・学ぶことに興味をもって積極的に取り組む ・学習活動を自ら振り返り意味づける。 ・身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりする	【深い学び】	④目的や場面、状況に応じて伝え合い、比較を通して、自分の考えを明確化
	⑥ 学びを生活の中でいかしていく	⑤物事を多面的に捉え、新たな考えの気づきへとつなげる視野の拡大

5 探究単元の開発に向けて

PYP (Primary Years Programme 幼稚園・小学校レベル) ・MYP (Middle Years Programme 11歳～16歳) を意識した概念と単元のテーマづくりを、パリ日の学習に沿った形で行っていく。

「学び方」や「考え方」を大切に、「思考プロセス」や「柔軟性」「自発性」を鍛えていくとともに、教科内容と実社会との関連性に対して認識を高められるよう働きかけることを目的としている。

①自分自身について

自分自身と、自分自身を取り巻くすべての人々について学びます。家族、友人はもちろん、コミュニティや世界の人々の信念や価値観、権利と責任、相互の人間関係を通じ、人として生きるものの意味を探究します。

②私たちが置かれている場所や時代について

自分自身、地域、地球規模の歴史や地理、文明を探究します。人類の起源やその移動、文明の成り立ち、その相互関係や、私たちがそこからどのような影響を受けているかなどを学びます。

③自己の表現方法について

創造力を伸ばし、楽しむ方法や、美しいものをめぐることを探究していきます。その手法として、考え方、感情、性質、文化、信念、価値観を深く知り、表現方法を学びます。

④すべてのことはどのように機能しているかについて

自然界の法則、物理的・生物的法則と人間社会の相互作用を知り、私たち人間がそれをどのように利用しているのか、科学技術の発展が私たちの社会や環境にどのような影響を与えているかを学びます。

⑤社会を体系付ける方法について

人間が作った組織の仕組みやコミュニティのあり方、構造などについて探究します。組織やコミュニティで行われる意思決定や、経済活動が私たちや環境にどのような影響を及ぼしているかを学びます。

⑥地球に共存する術について

限りある資源を、他者や人間以外の生物と共有するための権利や責任を探究します。コミュニティとコミュニティの関係、平和と紛争解決などについて考えます。

6 探究学習のための教員研修、組織づくり

海外における日本人学校の教員研修で意識すべきことは、2年から3年で派遣教員の任期が終了し、新しい組織が随時更新されていくことである。そのため、研究を推進するためには、ベーシックで日常指導の中での研修部分とシステム化を図り組織的に研究を行っていく部分の2層を意識しなくてはならない。

そこで、ベーシックの部分については、日常的な授業実践の積み重ねにより、各教員間や管理職の日常指導やOJTの場面で行われる。研究については、研究（小中学部統括）主任を中心として、小学部（低・中・高）から各1名、そして中学部から1名の研究推進委員が出て、研究部として組織し、そのメンバーを中心として推進していくことにしている。

研究全体会の他に、随時、研究推進委員会をもっている。研究全体会で位置付けられた研究の方向性や位置づけをもとに、それぞれの学部浸透させていく役目を研究推進委員は担い、全体のバランス調整を研究主任が図っている。

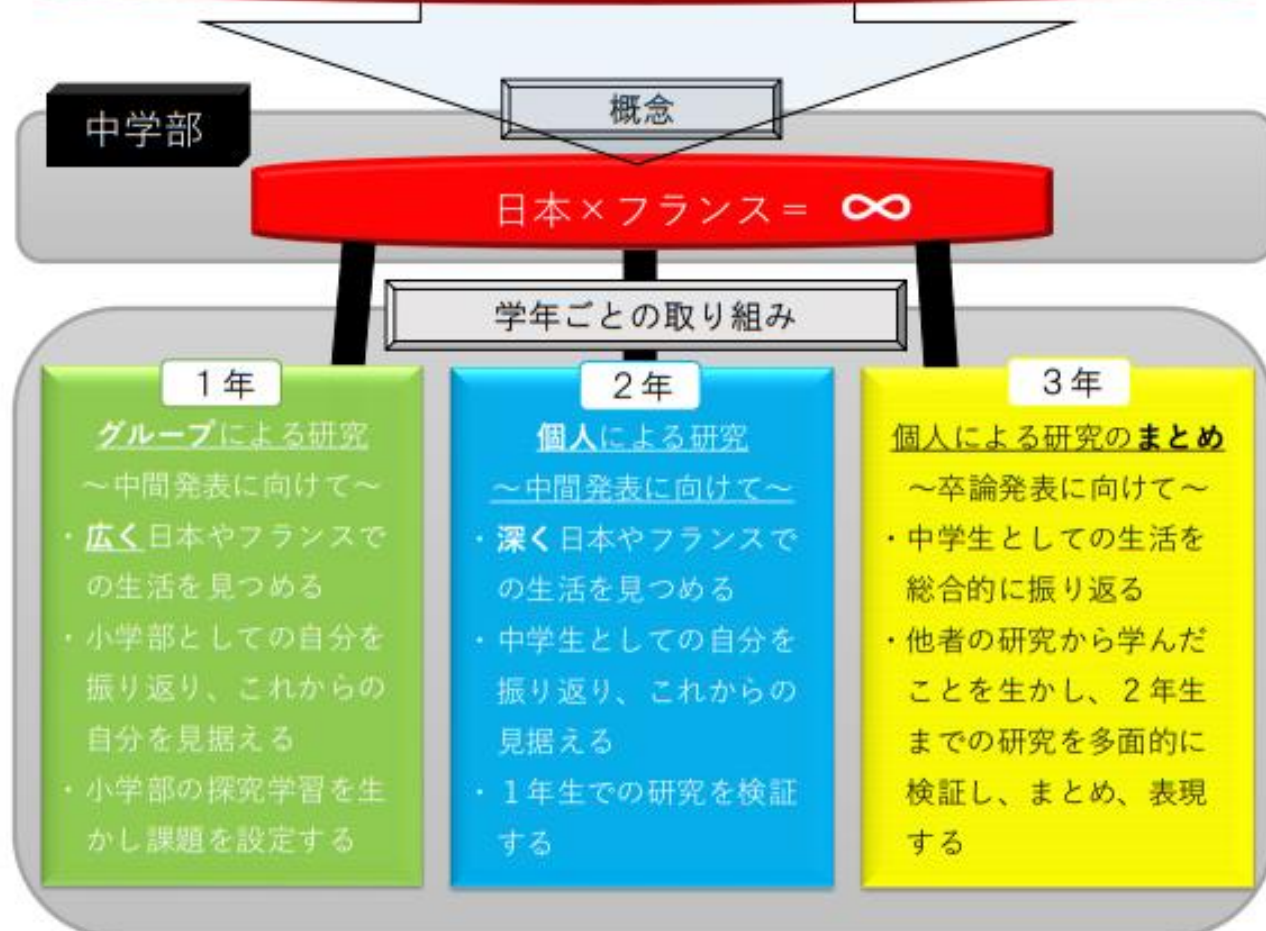
探究の学びは、継続していく必要があるため、必ず各派遣年次からメンバーを入れ、引継し、さらに進化・浸透できる体制づくりを考えている。研修で大切なことは、授業の共有と成果物の共有である。成果物については、学級での掲示はもとより、学校全体で閲覧できるホールにおいて、児童生徒の学びの成果物を閲覧共有することで、各学年の取り組みを把握することができ、そのことで切磋琢磨している。また、隣接学年での授業共有や合同授業、交流の場面を随時設定することで、取り組み姿勢や方向性、授業における指導方法の共有をし合うことを可能にしている。

このように、学校全体で進めていく研究と日々の実践の積み重ねの部分（ICTは、そのどちらにもはいる）の両面で研修を進めている。このことは、日本人学校でグローバルな研修を積むべき教員の研鑽の場となっている。

「探究科」における単元の概念と単元のテーマ

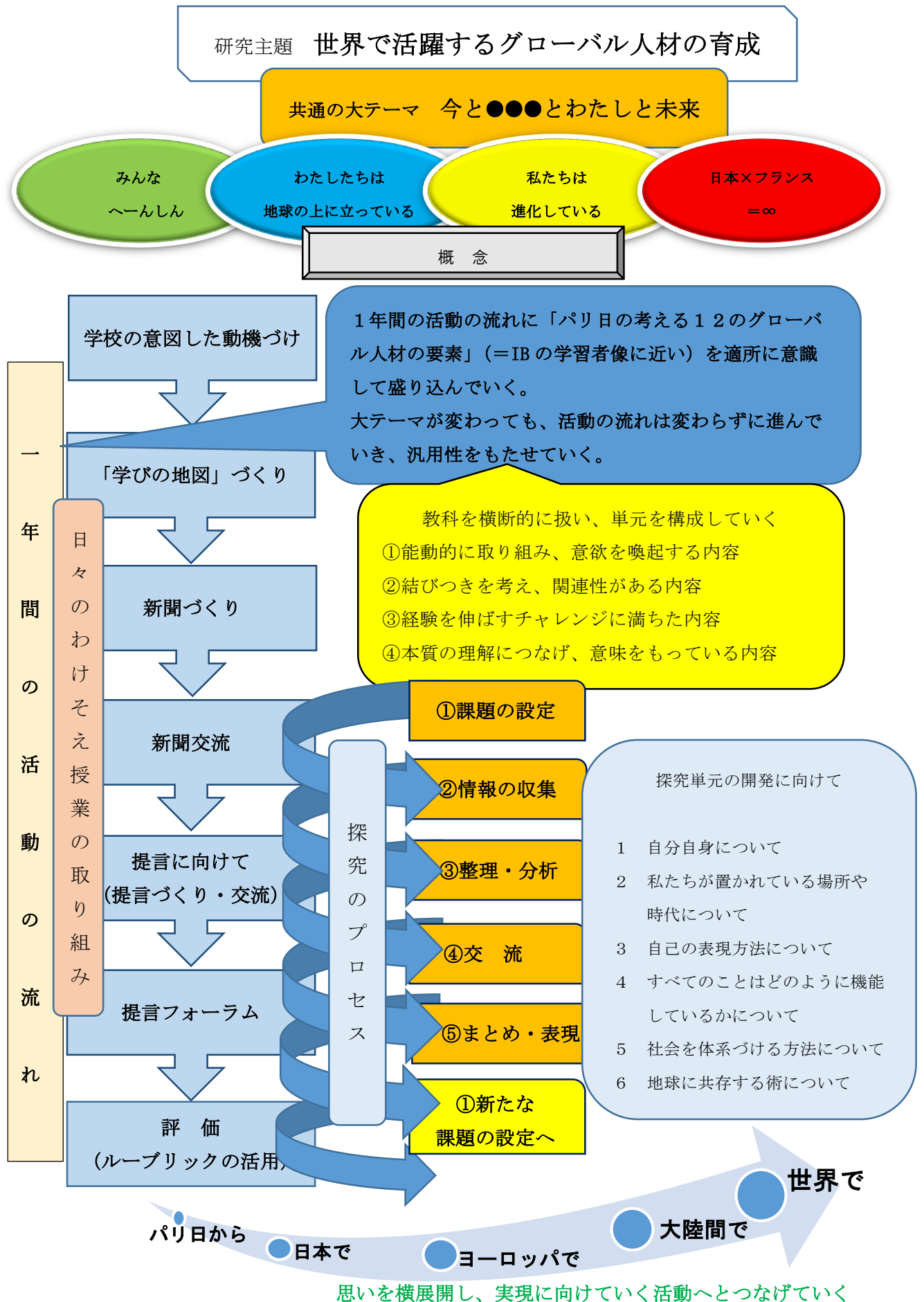


【生活基盤】 日本とフランスとわたし

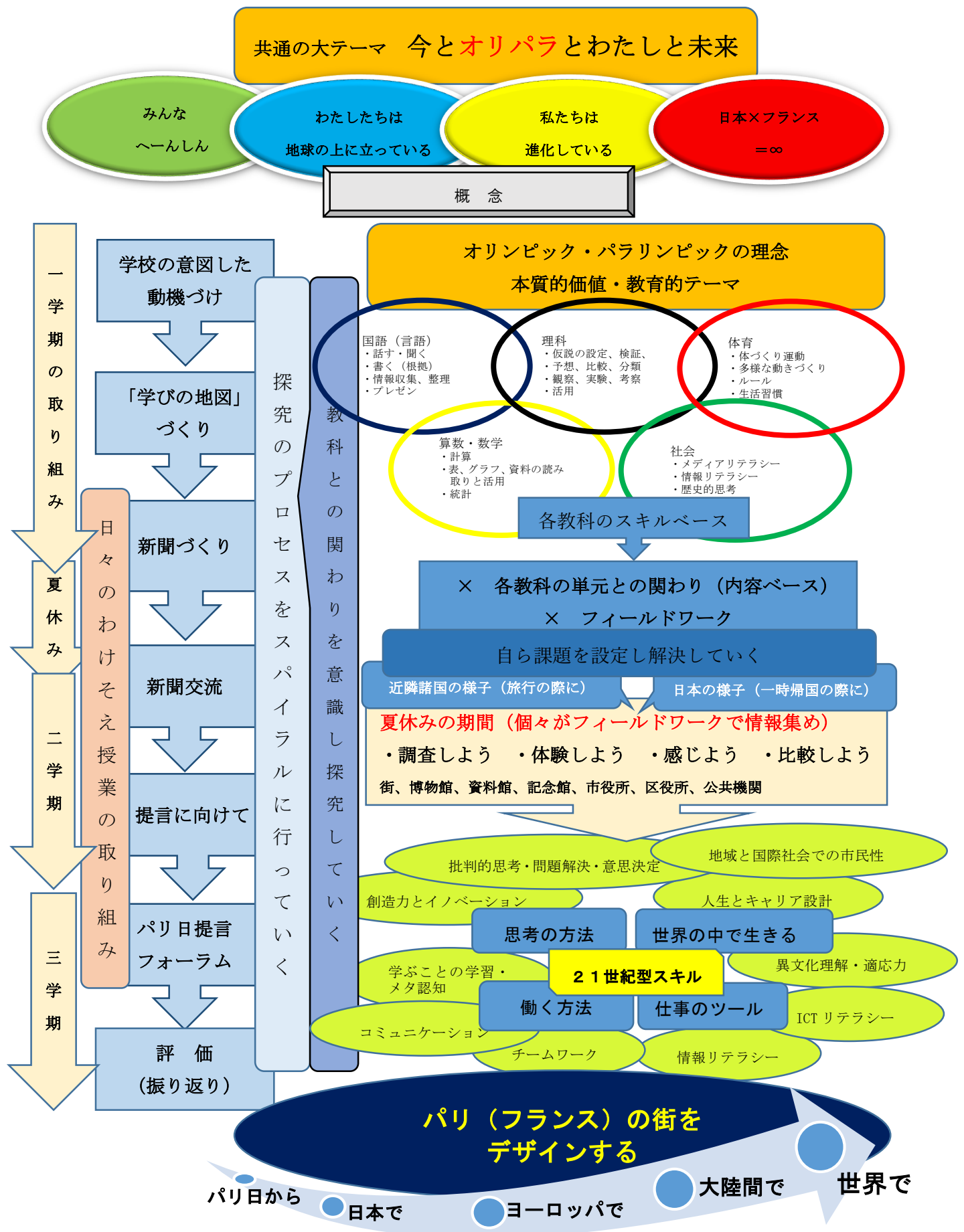


パリ日の考えるグローバル人材の要素				
		1～3年	4～6年	中学部
①	語学力・コミュニケーション力	日本語でも外国語でも自分の名前などの簡単な自己紹介で相手に伝えることができる。 「書く」「話す」などの手段を用いて、自分の伝えたいことを相手に「正確に」伝えることができる。	日本語でも外国語でも自分の気持ちを相手に伝えることができる。 「書く」「話す」などの手段を用いて、自分の伝えたいことを相手に「正確に」「効果的に」伝えることができる。 相手の伝えたいことや相手の意図を理解することができる。 自発的に質問を行って、正確でより詳細な情報を受け取ることができる。	異文化を超えて対話し、行動することができる。 「根拠」を示しながら自分の伝えたいことを相手に「正確に」「効果的に」伝えることができる。 周りの雰囲気を感じる、物事を見るなどでその意味を推し測ったり、相手の協力を得たりすることができる。
②	主体性・積極性	自分の役割や状況を考え、探索したり、疑問をもったり、質問したりし、意思に基づいて責任をもって行動することができる。	自分の興味関心のある事柄を実現するために、試行錯誤を繰り返しながら、予測をたて、成果に向かうことができる。	自分の役割や状況を考え、探索したり、疑問をもったり、質問したりし、予測をたてながら、今後の変化を確かめるための目的をもって行動することができる。
③	チャレンジ精神	進んで聞いたり、体験したりし、自ら目標をみつけて行動していくことができる。	進んで新しいことに挑戦し、目標に向かってねばり強く取り組むことができる。 新たな仮説をたて、確かめることができる。	困難な問題や未経験のこと、未知の分野に対しても可能性を探り、好奇心をもって挑戦することができる。 新たな仮説をたて、検証し、今後の生活に役立てることができる。
④	協調性・柔軟性	友達と協力して活動できる。 互いの違いを認めることができる。	友だちの意見の意図を理解し、さまざまな立場や考えを理解し、共感できる。 場に応じて臨機応変に行動し、分析することができる。	他者との違いを受け入れ、建設的な話し合いや交流ができる。 色々な場面に臨んでその変化に応じて適当に対応することができる。
⑤	責任感・使命感	自分でやらなければならないことは、しっかりと行うことができる。 途中であきらめずにやりきることができる。	与えられた役割の意味を理解し、粘り強く、最後までやり遂げることができる。	自分の役割の必要性を認識したうえで、責任をもって最後までやり遂げることができる。
⑥	異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ	フランスと日本の生活習慣や文化について知る。	フランスや諸外国、日本の文化の良さを理解し、互いに尊重しながら交流することができる。	日本の文化を深く理解したうえで、異文化に興味をもつとともに理解し、その良さや面白さ、考え方の違い認め、互いに尊重し、理解し合うことができる。
⑦	幅広い教養	新しいことへの興味をもったり、これまでの学習と現在の学習を関連付けたりすることができる。	創造する力や心の豊かさ、物事に対する理解力を得ようとし、自主的に様々な分野の知識を広げられる。	もっている知識と新しい知識を比較しつつ、つなげて考え、意味を理解することができる。 社会生活を営む上で必要な広い知識と教養を蓄え、幅広く具体的に追求することができる。
⑧	深い専門性		興味関心をもった分野について深く追求し、知識・理解を深めることができる。	自分の興味関心のある特定の分野について深く追求し、知識・理解を深めるとともに、自身の考えをもつことができる。
⑨	課題発見・解決能力	身の回りのことや課題に対して、問題点を見つけ、それを解決しようとするすることができる。	課題に対する自分なりの意見や考えをもち、工夫・整理しながら解決策を考えることができる。	自分で疑問を見出しつつ、探究のテーマを設定し見通しをもつことができる。 現状を分析し、目的や課題を多様な方法で明らかにするなど、常に問題意識をもち、課題を解決するための手段を見つけ、提案・実践できる。
⑩	チームワークとリーダーシップ	仲間と協力し合いながら、グループ活動ができる。	目標を達成するために、仲間と力を合わせて行事や様々な活動に取り組み、チームメンバーで役割を分担して協働することができる。 チームをまとめたり、認め合ったりすることができる。	課題解決にあたってそれぞれの立場や考え方を尊重し合いながらチームで対応することができる。 明確なビジョンと目標を示し、周囲の状況や現状を把握しながらフォローしていくことができる。
⑪	公共観・倫理観	物を大切にし、きまりを守って活動できる。	学校生活や課外活動などで善悪を正しく判断し、その場に相応しい行動をとることができる。	国ごとに公共観・倫理観が異なることを知り、日本人としてあるべき公共観・倫理観を理解することができる。
⑫	メディアリテラシー	自分に必要な情報を、教師や保護者、コンピュータや図書などを活用し、収集できる。	メディアから得られる情報を正しく選択することができる。 必要な情報を自らの力で判断し活用することができる。	メディアの機能を理解するとともに、分析評価し、創造的に自己表現することができる。

探究活動の全体構想



令和3年度の構想



※コロナ禍により学習の見通しが難しくなる

(昨年度に続き、今年度も様々な計画を随時、対応・変更しながら進めていく)

パリ日の対応

・学校閉鎖に伴う対応

学習支援をしていくための会議をオンラインにて行い、短期的かつ長期的な今後の見通しをもつ。年度当初から学校閉鎖となったが、昨年度の経験を生かし、今年度も、「学習を止めるな！」を教職員が念頭におき、オンラインでの学習指示や課題配信を毎日継続。主要教科の学習を進めながら、週に数時間程度、総合的な学習の時間や図工、生活科などの他教科にも取り組む。小学部は4月26日より、中学部は5月3日より登校開始となった。

学級閉鎖時にも、オンラインを使用した授業配信を行った。児童生徒へのタブレットの貸し出しがあり、即時対応できる環境は整っている。

・オンライン講座開催

学校閉鎖中や講師を学校に迎える体制が取れない状況下においても、学習支援企画として、オンライン講座を計画した。

☆オンライン講座をパリ日の研究に取り入れていく

- ・1時間の内容について（実際は質問などの交流が深まり90分近くになった講座もあった）を精査し、テーマにあった内容で講演を依頼し、オンラインにて講座を受講した。
- ・講座を受けながら、「学びの地図」を作成し、講座後に質問や意見交流をする。質問や意見交流をもとに、自身でも調べ学習を行い、「学びの地図」に書き足していった。
- ・低学年（小学部1年・2年）においても、3年生以上を対象としたオンライン講座に参加してもらい、「学びの地図」づくりの土台となる程度のメモをした。そのことで、3年生の取り組みにつながる経験をもたせながらの取り組みができた。

○すべての学習・活動において「探究のプロセス」を意識していき、年間を通して、探究のプロセスを大切にしていく。オンライン講座においても、探究のプロセスを大切にしてきた。今年度は、東京でオリンピック・パラリンピックが開催され、さらに2024年のオリンピック・パラリンピックの開催地がフランスであることから「オリンピック・パラリンピック」を共通のテーマに進めていく。

探究のプロセス

- ① 課題の設定：体験的な活動等を通じて課題意識をもつ
- ② 情報の収集：必要な情報を取り出したり、収集したりする
- ③ 整理・分析：収集し、取り出した情報を整理、分析する
- ④ 交流（自己実現の場）：発表の場・共有の場・吟味の場とする
- ⑤ まとめ・表現：気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

①～⑤の過程をスパイラルに行っていく

年間計画およびつきたい力

1 オンライン講座では（学校の意図した動機づけ） 4月～6月・年間通して随時

・・・②主体性・積極性 ⑦幅広い教養 ⑧深い専門性

コロナが落ち着けば通常通り学校での講演を依頼したいところではあるが、各地からの講演を依頼するには、オンライン講座が有効である。昨年度は共通のテーマを「科学」とし、研究の柱④の「汎用性のある小中一貫探究単元の開発」の検証をおこなったが、小中学部で共通のテーマをもつことで小中の交流が共通の話題で可能となった。講座は、学校の意図した動機づけとなり、テーマを通して自分の課題解決と提言につなげていく内容を計画していく。

- ① 4月 「南極を知れば地球が見えてくる」 100分 対象：小3～中3
パリ日教諭による講座（学びの地図づくりの練習や課題の見つけ方の練習として設定）
日本南極地域観測隊55次隊 教員南極派遣 水野団
- ② 5月 「東京オリンピック・パラリンピックについて」 110分 対象：小1～中3
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
スポークスパーソン 高谷正哲様
- ③ 6月 「オリンピック」 90分 対象：小1～中3
ロサンゼルスオリンピック体操金メダリスト 具志堅幸司様
- ④ 10月 「フラワーレーンプロジェクト」 45分 対象：小1～中3
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 警備局 小島良一様
- ⑤ 12月 「東京2020オリンピックへの出場を通して～東京からパリへ～」
90分 対象：小1～中3
東京オリンピック陸上女子1500m出場 ト部蘭様

2 「学びの地図」づくり（学習のビジョンをもち、組み立てていく・自己解決への道筋）

・・・②主体性・積極性 ③チャレンジ精神 ⑨課題発見・解決能力

オンライン講座を聞いて、メモしたことをもとに「学びの地図」を作成する。

- ・はじめて知ったこと、興味をもったこと
- ・疑問に思ったことや質問したいこと、調べてみたいこと
- ・今、すぐに自分ができること、考えるべきこと
- ・こんな未来にしたい、なっほしい、こんな生き方をしたい

「学びの地図」を作成することで、自己の理解を組み立てていく。

◎学習のビジョンをもつことができる →解決していくための道筋が見えてくる

- ・課題を見つける力 ・課題解決していく力
- ・疑問を見つける力 ・学び方やものの考え方を身につけていく力

⇒日常生活や身の回りの出来事、社会に目を向けていき、疑問や関心に基づいて自ら課題設定していく

自身の成長を見つけるきっかけづくりになる。

☆テーマが変わっても「学びの地図」の活用は、様々な学習に対応していけると考える。

3 「学びの地図」をもとにした「新聞づくり」（情報収集や多角的な見方の整理・分析）

- ・・・②主体性・積極性 ③チャレンジ精神 ⑦幅広い教養 ⑧深い専門性
- ⑨課題発見・解決能力 ⑫メディアリテラシー

新聞づくりをすることで、身につく力が多くある。

- ・多角的な見方やまとめる力
- ・伝えるための方法を考える力
- ・情報を収集し、選択する力（ICTの活用）
- ・自身が課題設定し、事実や真実を見極める目
- ・自身を見つめ直す機会
- ・世の中に考えを伝えたり提言したりする力
- ・探究していく力

4 新聞交流（新たな気づきの場面）

- ・・・①語学力・コミュニケーション力 ②主体性・積極性 ③チャレンジ精神
- ④協調性・柔軟性 ⑤責任感・使命感 ⑥異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ ⑦幅広い教養 ⑧深い専門性 ⑨課題発見・解決能力
- ⑩チームワークとリーダーシップ ⑪公共観・倫理観 ⑫メディアリテラシー

具体的な問題について情報を収集し、整理・分析していく。

もっている知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決のきっかけとしていく。

発表の場・共有の場・吟味の場としていく。

- ・自分の生活を知るきっかけ
- ・日本・フランス・近隣諸国・世界の状況を見直すきっかけ（比較）
- ・多様な情報を活用し、新たな考えを発見する場

⇓

異なる視点や同意見の中から、新たな取り組みの発見へとつなげていく

- ・具体的に何ができる？
- ・何がどう変わる？
- ・自分の行動にどう働きかける？

⇓

本当にそれでいいのか？（クリティカルシンキング）

考えていくための力・見直す力をつけていきたい

⇒ **世の中との関わりとの関係性を導き出す力**

5 提言に向けての個の活動・グループ活動・学年・ブロックでの活動では（概念やキーワードを意識して進めていく）

- ・・・①語学力・コミュニケーション力 ②主体性・積極性 ③チャレンジ精神
- ④協調性・柔軟性 ⑤責任感・使命感 ⑥異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ ⑦幅広い教養 ⑧深い専門性 ⑨課題発見・解決能力
- ⑩チームワークとリーダーシップ ⑪公共観・倫理観 ⑫メディアリテラシー

概念やキーワードを意識して、あるテーマに関連した課題や疑問、解決方法などを、説明する力や他者の考えを理解する力を育成する。

- ・明らかにになった考えや意見などをまとめ、表現していく。
- ・そこからまた新たな課題を見つけ、更なる 問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していくことで、自分の考え方や生き方をより明らかにしていく。

6 パリ日提言フォーラムでは（生きる力とは何かを考える）

- ・・・①語学力・コミュニケーション力 ②主体性・積極性 ③チャレンジ精神
- ④協調性・柔軟性 ⑤責任感・使命感 ⑥異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ ⑦幅広い教養 ⑧深い専門性 ⑨課題発見・解決能力
- ⑩チームワークとリーダーシップ ⑪公共観・倫理観 ⑫メディアリテラシー

- ・各ブロック（低・中・高・中学生）の概念やキーワードをもとに、様々な捉え方や考え方を通して、周囲との関係性や自己の生き方を考える場とする。
- ・成長を実感し、課題や目標を発見できる場とする。

人が生きる意味を何に見出し、よりよく生きるために今をいかに生きるべきかを考えさせるために、「**自己の生き方を考えることができる**」「**何をすべきか・何ができるか・何を優先するべきか**」といった力の育成をめざす。

- ・どのように人や社会、世界、自然などと関わり、自らの生活や行動について見つめ、よりよい人生を送るか考える。（ビジョニングする）
- ・地域を大切にし、地域に貢献しようとする態度を養い、社会の一員として何ができ、何をすべきかを考える。（社会に働きかける力）
- ・過去、現在や将来について真剣に考え、学ぶことの意味や価値を知り、生きがいのある生活を実現していこうとすることができる。
- ・伝え合うことで、さらなる考えや意見を深め、学習に対する有用感を得て、学ぶことの大切さと意味に気づく。
- ・自分のよさや可能性に気づき、自己の生き方につなげていく。

7 評価（ルーブリックの活用）

- ・1～6の活動（学習プロセス）を対象とした評価（学びの地図・新聞・提言書・話し合い活動など）各場面における評価基準
 - 教師評価
- ・自己充実・達成感を得た感想・評価
 - 自己評価
- ・友人や保護者（社会）、外部の方（今年度は機構）からのコメントや評価
 - 多角的な評価

※1～7の活動、また、普段の学習・活動において、パリ日が目指すグローバル人材の要素「パリ日が目指す児童像・生徒像」を教師は常に意識して指導にあたる。

各場面における評価基準・小学部中学年（ループリック）教師用

		A 素晴らしい	B 概ね満足	C もう少し
オンライン講座	② 主体性・積極性	質問や疑問を講師や友達に対して発表することができる。	メモを取りながら、質問を考えたり、疑問をもったりすることができる。	きちんと話を聞くことができる。
学びの地図づくり	⑨課題発見・解決能力（②）	テーマ（概念）と関連付けた意見を、根拠を明確しながら出すことができる。	テーマと関連付けた意見を出すことができる。	自分の意見をだすことができる。
新聞づくり	⑫メディアリテラシー（②⑨）	取捨選択した情報を自分の言葉にまとめて直すことができる。	集めた情報から必要な情報の取捨選択ができる。	書籍やインターネットなどを用いて情報を集めることができる。
新聞交流	⑦幅広い教養（①⑨）	新聞を読んだり、発表を聞いたりして、新しいことへ興味や具体的な課題をもつことができる。	新聞を読んだり、発表を聞いたりして、新しいことへ興味をもつことができる。	新聞を読んだり、発表を聞いたりすることができる。
提言作り	⑨課題発見・解決能力（④⑤⑫）	課題に対する自分なりの意見を持ち、それに対する解決策を考え、聞く人に分かりやすくまとめることができる。	課題に対する自分なりの意見を持ち、それに対する解決策を考えることができる。	課題に対する自分なりの意見をもつことができる。
提言フォーラム	①語学力・コミュニケーション力（③⑦⑨）	自分の提言について、伝えるべきことを明確にしながら説明するとともに、自分の考えを伝えることができる。	自分の提言について、伝えるべきことを明確にしながら説明することができる。	自分の提言について、説明をすることができる。

各場面における子供たちの評価基準・小学部中学年（ループリック）

		A 素晴らしい	B 概ね満足	C もう少し
オンライン講座	② 主 体 性・積極性	他の人にたいして、ふしぎに思ったことや分からないことを発表している。	不思議に思ったことやしつもんを、メモを取りながら、考えている。	きちんと話を聞いている。
学びの地図づくり	⑨ 課題 発見・解決能力	テーマとかんけいのある意見を、理由をはっきりさせながら出している。	テーマとかんけいのある意見を出している。	自分の意見を出している。
新聞づくり	⑫ メディアリテラシー	えらんだじょうほうを自分の言葉でまとめなおしている。	集めたじょうほうからひとつようなじょうほうをえらんでいる。	本やインターネットなどを用いてじょうほうを集めている。
新聞交流	⑦ 幅広い教養	発信	自分の意見をはっきりさせながら一番言いたいことが伝わるように発表している。	自分の調べたことを伝えている。
		受信	他の人の新聞を読んだり、発表を聞いたりして、新しいことへ興味をもつことができるとともに、調べたいことを見つけている。	他の人の新聞を読んだり、発表を聞いたりしている。
提言作り	⑨ 課題 発見・解決能力	調べたいことについて自分の意見をもち、それにたいするかいけつさくを考え、分かりやすくまとめている。	調べたいことについて自分の意見をもち、それにたいするかいけつさくを考えている。	調べたいことについて自分なりの意見をもっている。
提言フォーラム	① 語学力・コミュニケーション力	発信	自分の一番伝えたいことを分かりやすく発表するとともに、自分の考えを伝えている。	自分のまとめたことを発表している。
		受信	発表する人の一番伝えたいことが分かるとともに、それに対する自分の意見をもっている。	きちんと発表を聞いている。

各場面における評価基準・小学部高学年（ループリック）**教師用**

		A 素晴らしい	B 概ね満足	C もう少し
オンライン講座	③チャレンジ精神 （②・⑦）	聞いたり質問したりしたことから興味・関心や課題をもち、解決への見通しをもつことができる。	聞いたことに興味・関心をもち、その解決についての見通しをもつことができる。	話の内容に興味をもって聞くことができる。
学びの地図づくり	②主体性・積極性 （③・⑨）	テーマ（概念）にそって生活や授業・経験などと関連付けながら進んで学びの地図を作ることができる。	テーマ（概念）にそって生活や授業・経験などから学びの地図を作ることができる。	興味・関心をもとに、学びの地図を作ることができる。
新聞づくり	⑩課題発見・解決能力 （⑤・⑫）	自分の課題について調べ、意欲的に幅広い知識を得ようと情報を収集・整理し、新聞にまとめることができる。	自分の課題について調べ、各種資料を効果的に活用し、新聞にまとめることができる。	興味・関心にもとづいて調べたことを新聞に書くことができる。
新聞交流	①語学力・コミュニケーション力 （④・⑨）	新聞をもとに話したり聞いたりすることで、自他の新たな課題を作るために互いの考えを伝え合うことができる。	新聞をもとに、感想や自分の考えを話したり聞いたりすることができる。	新聞について、感想を話したり聞いたりすることができる。
提言づくり	⑨課題発見・解決能力 （②・⑦）	提言のもととなる情報が整理されていて、自分自身や社会全体としての実行力と説得力のある提言にまとめている。	提言の根拠と関連性のある情報が示されまとめられている。	自分の提言をつくらることができる。
提言 フォーラム	⑦幅広い教養 （⑧・⑫）	提言を見たり聞いたりすることで、新しい知識などへの探究意欲が高まり、視野を広げることができる。	提言を見たり聞いたりすることで、新しい知識などへの探究意欲が高まっている。	興味・関心をもって提言を見たり聞いたりすることができる。

各場面における子供たちの評価基準・小学部高学年ルーブリック)

		A 素晴らしい	B 概ね満足	C もう少し
オンライン講座	③チャレンジ精神	友達の話を、メモをとりながら聞いたり質問したりして自分の課題を作り、解決への見通しをたてる。	友達の話を、メモを取りながら聞き、問題解決への見通しをもつ。	友達の話をメモとりながら聞くことができる。
学びの地図づくり	②主体性・積極性	テーマ(概念)にそって、知っていることと関連付けて学びの地図を作る。	テーマと関連付けて、学びの地図を作る。	進んで学びの地図を作る。
新聞づくり	⑨課題発見・解決能力	課題について様々な方法で調べ、集めた正しい情報を整理して新聞にまとめる。	課題について調べた情報を整理して新聞にまとめる。	課題について調べたことを新聞にまとめる。
新聞交流	①語学力・コミュニケーション力	新聞について興味をもち、友達に話したり聞いたりして課題を作るために話し合う。	新聞についての感想や自分の考えを話したり聞いたりして新しいことへ興味をもつ。	新聞について、感想を話したり聞いたりする。
提言づくり	⑨課題発見・解決能力	課題を解決するための実行力と説得力のあるわけがそえられた提言をまとめる。	自分なりのわけがそえられた提言をまとめる。	自分なりの提言をまとめる。
提言 フォーラム	⑦幅広い教養	提言を見たり聞いたりすることで、新しいことに興味をもち、新たな課題を作り視野を広げる。	提言を見たり聞いたりすることで、新たな課題を作る。	提言を見たり聞いたりして興味をもつ。

各場面における評価基準・中学部（ループリック） 教師用

		A 素晴らしい	B 概ね満足	C もう少し
オンライン講座	②主体性・積極性 （⑦⑧）	話を聞きながら自分の考えや問題意識を明確にし、質問や疑問を進んで発表することができる。	話を聞きながら問題意識をもち、自分の考えや質問、疑問を明確に表出することができる。	話を聞きながら問題意識をもち、自分の考えや疑問をもつことができる。
学びの地図づくり	⑨課題発見・解決能力 （②③）	テーマ（概念）にそって、興味をもったことから、自分にできることや自分の生き方、未来へと思考を広げて学びの地図を作ることができる。	テーマ（概念）にそって、初めて知ったことや興味をもったことから、自分にできることへと思考を広げて学びの地図を作ることができる。	テーマ（概念）にそって、初めて知ったことや興味をもったことをもとに学びの地図を作ることができる。
新聞づくり	⑫メディアリテラシー （②⑤⑧⑨）	調べた情報を批評的に分析し、自分の意見に必要な正しい情報を有効に活用することができる。	調べた情報の正しさを確かめ、自分の意見に必要な情報を有効に活用することができる。	自分の意見に必要な正しい情報を調べ、新聞づくりに生かすことができる。
新聞交流	①語学力・コミュニケーション力 （②④⑦⑨⑩）	相手意識をもち、自分の伝えたいことに焦点を絞って、根拠を示しながら分かりやすく説明することができる。	相手に自分の伝えたいことに焦点を絞って、根拠を示しながら分かりやすく説明することができる。	新聞をもとに、相手に自分の伝えたいことについて、根拠を示しながら分かりやすく説明することができる。
提言づくり	⑨課題発見・解決能力 （②④⑤⑦⑧⑫）	提言に向けて、地球や世界、自分たちの現状の問題点から到達目標を決め、多くの聞き手の意識を動かす提言書を作成することができる。	提言に向けて、自分たちの現状の問題点から到達目標を決め、相手が納得するような提言書を作成することができる。	提言に向けて、現状の問題点から到達目標を決め、筋の通る発表を意識して取り組むことができる。
提言フォーラム	④協調性・柔軟性 （①③⑦⑧⑩⑫）	発表者の提言の意図を理解し、相手の考えを生かしながら提言が深まるよう自分の考えを伝えたり、質問したりすることができる。	発表者の提言を理解し、提言が深まるよう自分の考えを伝えたり、質問したりすることができる。	発表者の提言について、自分の考えを伝えたり、質問したりし、相手の発表を深めようとすることができる。

各場面における子供たちの評価基準・中学部（ループリック）

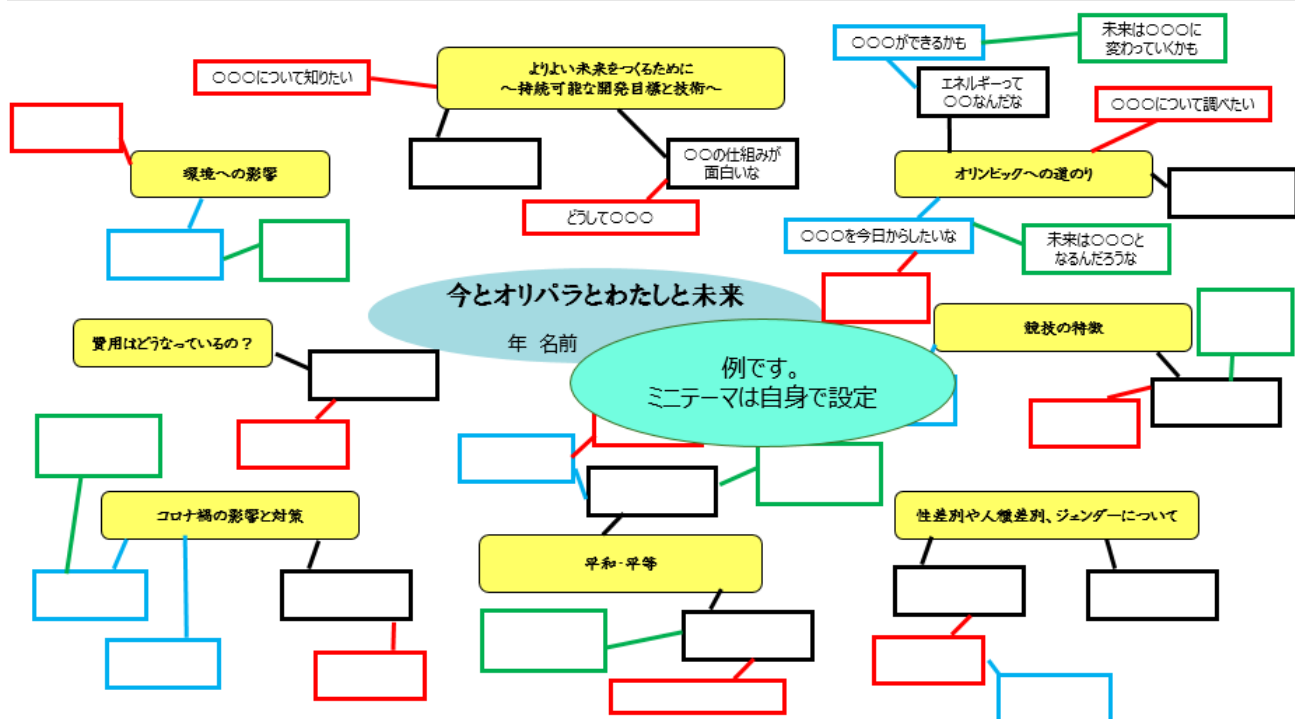
		A 素晴らしい	B 概ね満足	C もう少し
オンライン講座	②主体性・積極性	話を聞きながら、自分の考えや問題意識を明確にし、質問や疑問を進んで発表している。	話を聞きながら、問題意識をもち、自分の考えや質問、疑問を明確に表出している。	話を聞きながら問題意識をもち、自分の考えや疑問をもっている。
学びの地図づくり	⑨課題発見・解決能力	テーマ（概念）にそって、自分にできることや自分の生き方、未来へと思考を広げて学びの地図を作る。	テーマ（概念）にそって、自分にできることへと思考を広げて学びの地図を作る。	テーマ（概念）にそって、初めて知ったことや興味をもったことをもとに学びの地図を作る。
新聞づくり	⑫メディアリテラシー	調べた情報を批評的に分析し、必要な正しい情報を有効に活用している。	調べた情報の正しさを確かめ、必要な情報を有効に活用している。	必要な正しい情報を調べ、提言書作りに生かしている。
新聞交流	①語学力・コミュニケーション力	相手意識をもち、焦点を絞って、根拠を示しながら分かりやすく表現している。	焦点を絞って、相手に根拠を示しながら分かりやすく説明している。	新聞をもとに、根拠を示しながら分かりやすく説明している。
提言づくり	⑨課題発見・解決能力	提言に向けて、到達目標を決め、多くの聞き手の意識を動かす発表をしている。	提言に向けて、到達目標を決め、相手が納得するような発表をしている。	提言に向けて、筋の通る発表を意識して取り組んでいる。
提言フォーラム	④協調性・柔軟性	発表者の提言やその場の話し合いが深まるよう自分の考えを伝えたり、質問したりしている。	発表者の提言を深まるよう自分の考えを伝えたり、質問したりしている。	発表者の提言について、自分の考えを伝えたり、質問したりしている。

学びの地図をつくろう!!!

A3用紙に作ります(A4を2枚つなげてもいいよ)

- ・はじめて知ったこと・興味をもったこと → 黒わくで
- ・疑問に思ったことや質問したいこと、調べてみたいこと → 赤わくで
- ・今、すぐに自分にできること、考えるべきこと → 青わくで
- ・こんな未来にしたい・なってほしい・こんな生き方をしたい → 緑わくで

メモしたことをもとに、学びの地図をつくろう。
資料から 読み取ろう・考えよう。



廊下掲示資料資料
「学びの地図」イメージ

学びの地図をもとにして 新聞作りに挑戦だ！！

A3用紙に作ります(A4を2枚つなげてもいいよ)

資料にあることや講座で聞いたことを
そのまま書くだけではなく、
自分で新たに調べて分かったことや、
今、自分にできること、考えるべきこと、
未来に向けてなどが中心の
記事になるといいですね。

1つだけの講座でまとめるのではなく、
いくつかの講座を新聞に
まとめてもいいですよ。

A3用紙は、たてに使っても横に使っても
どちらでもいいですよ。

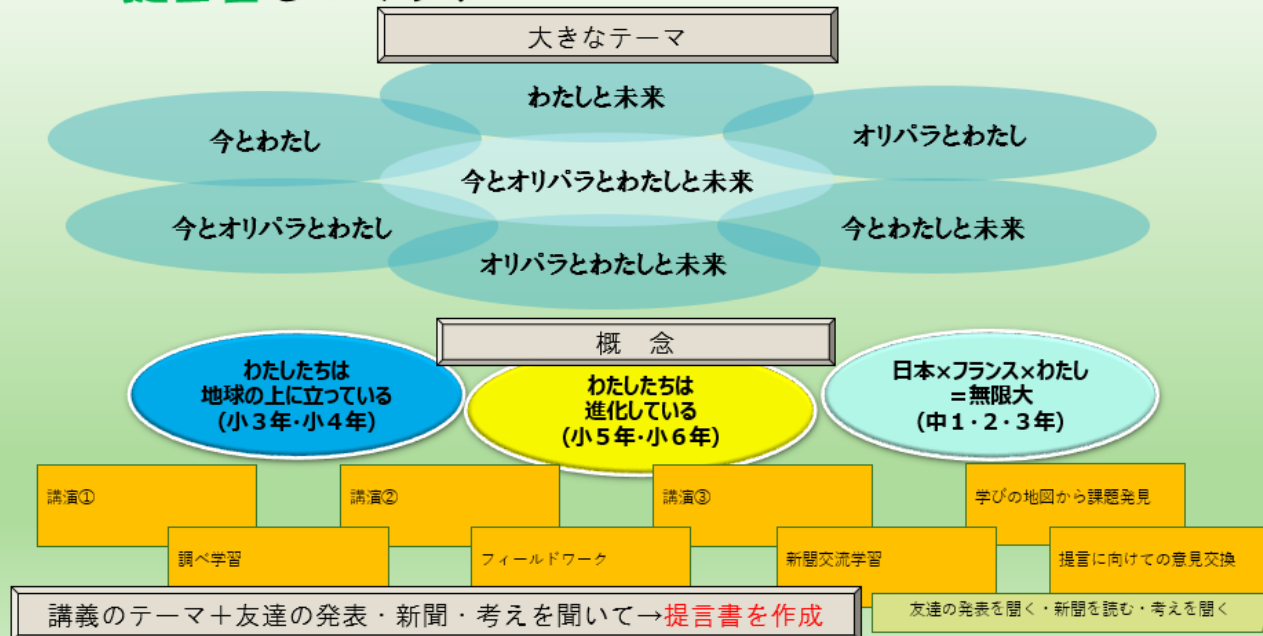
「3・4年生」「5・6年生」「中1～3年生」の 3つのグループに分かれて発表会をしよう

友達の新聞を読んで
友達の発表を聞いて



廊下掲示資料

提言書をつくろう!!!

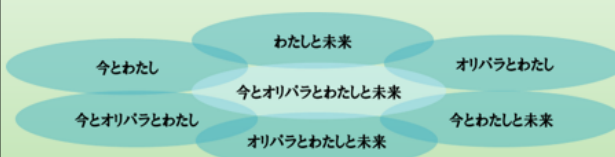


わたしは○○○○を
提言します

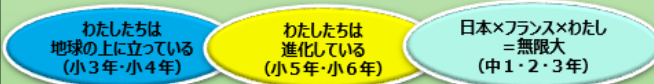
- 1 現状の問題点
(これはどうなんだろう・考えたこと)
- 2 どうしてそのように思ったのか
(訳をそえて)
- 3 到達目標
(こうしたい・こうすべき・あるべき姿)

提言書(起案書)をつくろう

1 自分にあった大きなテーマを決める



2 大きなテーマと各学年の概念に合わせた内容で提言書(起案書)を作成



3 提言書(起案)は左記の3点を中心にまとめる。

日本×フランス-∞ []

提言する内容
わたしは
(を提言します！)

年 名 姓

1 現状の問題点
問題を発見して考えたこと/興味のある問題

2 どうしてどのように思ったのか(わけをしっかりと伝えよう)
現在とのギャップ/どんな課題があるか/何が問題となっているか

【仮説】
○○をすることによって、○○になると考える。

3 到達目標
問題をどのように解決するか/具体的にどのような解決策があげられるか/自分たちで取り組めることは何か

中学部の提言書
(起案書)

提言書(起案書)ができれば

- 1 提言書(起案書)をもとにして
 - ・さらに調べたいことはないか
 - ・関連した課題や疑問、解決方法は？
- 2 フレゼン交流をしながら、見直しを重ね発表の準備をしよう
 - ・考えや意見などをまとめ、繰り返し改善をしながらフレゼン資料を作成していこう
 - ・自分の考え方や生き方を明らかにしていこう
- 3 提言フォーラムに向けて
 - ・分かりやすい言葉や説明になっているか確認しよう
 - ・予想される質問を想定し、答えを準備しておこう

提言フォーラムに向けてのフレゼン資料を作ろう

1 おおまかな流れを決めよう(5分前後の発表時間)

- ① 提言内容に関わる問題提起・・・1分30秒～2分程度
 - ・何が問題となっているのか
 - ・どうしてそのように思ったのか、わけをしっかりと伝えよう
 - ・資料やデータを活用して
 - ・その根拠は？
- ② 提言(どうしたいの???を明確に)・・・1分程度
 - ・そんな手があったかと、興味をひく内容や言葉選び
- ③ 提言によって、今後どのように生活(世の中)が変わるのか
・・・2分～2分30秒程度
 - ・予想される具体的な変化の提示
 - ・理想の生活や社会

効果的な発表に
するために、
②①③の順で発
表するなど、伝え
る順番の工夫をす
るといいね。

提言フォーラムに向けてのプレゼン資料を作ろう

2 資料づくりに困ったら…

- 家族や友達、先生の考えも聞いてみよう
- 友達が作成した新聞の中にもヒントが！
- 調べたいキーワードをいくつか選び、インターネットで検索だ！
- 自分の想像力を最大限にはたらかせて、未来を予想してみよう
(これは絶対に出来ない！という考え方は「さようなら」
出来たら面白い！凄いい！ こんな未来になるだろう！
という考え方にチェンジ)

3 資料が完成したら

- 発表時間を計測してみよう(長すぎない？ 短すぎない？)
- 一つのスライドに文章を入れすぎず、簡潔に、見やすく

提言フォーラムに向けてのプレゼン資料を作ろう

4 引きつけるキーワードはあるかな？

- えっ！と思う内容
※過去の提言での例
「宇宙人はいます」「携帯電話を世の中からなくそう」
「全ての人が発電機になる」
- ドキドキ・ザワザワする言葉選び
※過去の提言での例
「世の中からゴミが消える」「温暖化を気にしなくてよい生活」
「空飛ぶ電気自動車で環境問題と渋滞を解消」
- そんなの無理！！！！を、どう納得・説得させるかが勝負！
- つっこまれた質問を恐れないで！

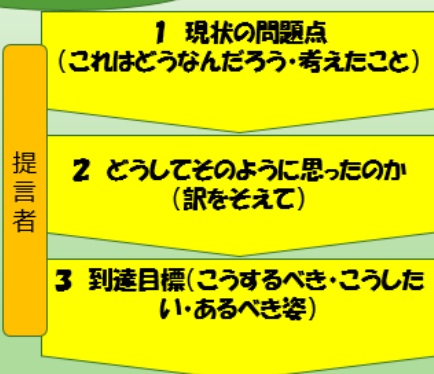
提言フォーラムに向けてのプレゼン資料を作ろう

5 予想される質問

- 自分の提言に対して、自分だったらどんな質問をするかを考え、自身で答えてみよう
 - ・新しい課題発見につながるよ
 - ・自分の説明がより分かりやすくなるように改善できるよ
- 難しい意味の言葉に対する質問には
 - ・そもそも、なるべく分かりやすい言葉を使おう
 - ・どうしてもその言葉を使いたい場合には、簡単な補足説明を
- パワポのノートに予想される質問とその回答をメモで残そう
- 自身で答えられなかったら、再度調べてみよう

～今とオリパラとわたしと未来～ パリ日提言フォーラム

提言しよう!!!



質問・意見・感想などの交流

提言はミニ部会を行い、その後、全体会を行う

ミニ部会

- ・縦割り班に分かれて、個人発表
- ・簡単な意見交換や感想を述べる時間を設定
- ・司会進行は高学年が行う
- ・小学部3年生は、低学年への発表
- ・小学部1・2年生は全体への発表

全体会

- ・各学年から発表者を決定
- ・司会者2名(中学部から)
- ・講演を行ってくださった皆様にも参加を願う

【生活科では】

1 季節を通しての探究活動

「春」「夏」「秋」「冬」の季節毎に、1年生は主に「自然」に関わることで、2年生は主に「せい長」に関わることを意識しながら学習を進めてきた。

「みんな　へ～んしん」をキーコンセプトとし、自分自身や周囲の様子がどのように変化してきているかを見つめる時間を設けていく。その中で、様々な関わりを発見し、疑問をもち、調べ、次の季節につなげて考えようとしていた。

聞いたことや調べたことをもとに考え、話し合い、解決したり、新たな発見をしたりしていく力を身につけていきたい。

2 「学びの地図」へのつながり

それぞれの季節に応じて、様々な発見をする中で、子供たちは見つけたことや思いを、こまめにメモをしていく。この作業は、3年生以上が行っている「学びの地図」づくりの土台となり、今後の学習につながっていく。

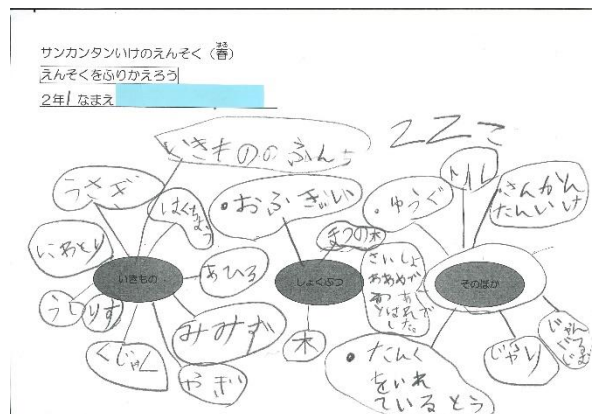
テーマの中から、自分に関わる事柄を当てはめ、
気づきにつなげていく作業を重ねることで、様々な
事象がつながっていくことにも気づいていく。

1年生のはじめのうちは記載事項が少ないが、2年生と交流をしたり、月日を重ねていくごとに、考え方が深まったりして、思考が増していったりした。自由な発想を抱く姿が見られた。

3 低学年発表

自分たちの見つけた「へ～んしん」を小学部３年生～中学部３年生・保護者に対して発表する機会を設けた。様々な発見や気づきを知らせることで、伝えることの面白さや調べたいという思い、探究するきっかけづくりとなる。

また、3年生の提言を1・2年生が聞き、感想や意見を述べていく。3年生が提言する姿を見ることや提言を聞き、考えをもつことで、今後、自分たちが行うであろう自身の姿を想像することができる。



【ICT 機器の活用】

普段の学習において、ICT 機器を使用してきているが、コロナ禍の状況下では、より ICT 機器を活用する場面が多くなった。

制限されていること

- ・ソーシャルディスタンスを保つことから、ノートを見せ合うなどの活動が制限
- ・グループ活動の人数制限により話し合い活動や対面での活動が制限
- ・ものの貸し借りの制限（ノートや作成資料などの交換）
- ・時期によって、異学年交流の禁止もしくは交流できる学年の制限

ICT 機器を活用することで、様々な制限を通常の状態に近いところまで解消することができた。

〈教室内では〉

- ・タブレットの活用（2020年度に完備）

校内130台を配備し、自由に使用することができる環境を整えた。インターネットにつなぎ、調べ学習をしたり、写真や動画を撮影したりした。

また、パワーポイントを使用して提言発表の練習などを行うなど、普段からタブレットを使用する姿が見られた。



タブレットの設定から学ぶ様子

- ・PC 教室（パソコン室）の活用

30台、常備している。タブレットと併用して、PC 室の活用が増え、調べ学習や発表物のまとめの制作に使用する頻度が高くなった。



グループ発表の準備をする様子

- ・各教室にプロジェクターの整備（2020年度に完備）

全ての教室にプロジェクターを整備した。普段の学習においても使用しているが、ソーシャルディスタンスを保つことやグループ活動が制限される時期が長期にわたっており、児童生徒のノートに記載された考えや発表物など、児童生徒の伝えたい情報がプロジェクターを使用して投影された。



調べ学習の様子

- ・EzCastPro の活用

全ての教室に整備されている。画像や動画などを、テレビやプロジェクターなどにつなぎ、大画面にWi-Fi（無線）接続する。

児童生徒が使用するタブレットやPCとつなぐことで、個やグループが提供したい資料をクラス全体に容易に共有することができた。EzCastPro の活用により、コロナ禍において制限されている交流学习が問題なく行うことができた。



タブレットと EzCastPro をつないで発表する様子

〈異学年交流〉

・大型プリンターの活用

長期的に見せたい資料や多くの学年に見てほしい内容のものについては大型プリンターを使用して掲示した。

廊下の壁面を使用した。ソーシャルディスタンスを保つため、広く場所をとることとなった。



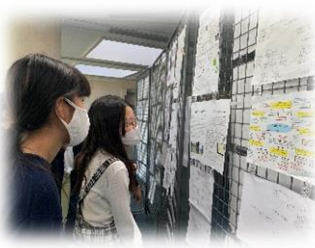
大型プリンターの活用

他の学年のノートを見る子供たち

・移動式掲示板の活用

壁面の掲示と同時に移動式の掲示板を活用した。校内に30台配備し、常に使用可能。

すぐに見せたい内容については、プロジェクターなどを使用するが、長期的に見せたい内容や交流したい内容については、掲示板が有効。ICTと併用活用することでより学習に深まりが出てきた。



移動式掲示板の活用

他の学年の学習の様子や長期的に掲示しておきたいものに対しては有効

・ZOOMの使用

異学年交流ができない時期が長期にわたって続いたが、ZOOMを使用することで、様々な話し合いなど、異学年の交流を随時行うことができた。

また、日常より、ZOOMを使用しながら交流を行うことで、児童生徒の精神的な面でも安定につながり、学習への影響もあった。さらに、日常にZOOMを使うことで、学習時においても違和感がなく、学級閉鎖時でも有効活用された。



講演会や児童の交流・話し合い・発表の場面

〈ZOOMの活用例〉

- ・学校閉鎖中の朝の会・オンライン授業
- ・講演会の開催
- ・始業式、終業式の講話
- ・小学部朝会、中学部朝会での講話
- ・児童会、生徒会からのお知らせ
- ・2つ以上の場を必要とする学習交流
- ・異学年での話し合い活動・交流
- ・その他、各種行事・オンライン授業参観・オンライン保護者懇談会などでも活用



学級閉鎖時の授業の様子



先生方からの各種伝達事項

授業実践報告



(第1回フラワーレーンプロジェクト実行委員会 小学部1年生～中学部3年生の実行委員)

1学期の英語科における実践のまとめ

中学部 3年 英語科

1 研究テーマ

英語科と総合的な学習の時間（探究学習）をつなげる教科横断的な授業改善

2 研究テーマについて

（1）テーマ設定の意図

本校では、平成30年度から文部科学省高度グローバル人材育成事業拠点戦略を受け、その拠点校として探究的な学びとその単元開発を試みてきた。グローバル人材の要素として「語学力・コミュニケーション力」や「主体性・積極性」などを設定し、理想とする児童生徒を育成するために、「対話的な深い学び」による授業改善を実践してきている。2年次である昨年度には、中学部では「フランスと私」をテーマに、生徒の思考をウェブマッピング方式で「学びの地図」にまとめ、学習にビジョンと多面的・多角的な視点をもたせながら、研究を進めた。意見交流会や提言フォーラムなどを通して、子供たちは過去、現在や将来について考え、学ぶことの意味や価値を知り、探究することの楽しさを感じ取ることができた。また、探究した内容から自分なりに問題点を見つけるとともに、その解決策を考えるなど、より高次の思考レベルで探究学習を展開することができた。このように、これまでの研究から一定の成果を得ることができた。

しかしながら、コロナ禍という制限がある中で①各教科と総合的な学習の時間（探究）とを横断的に扱う視点での授業改善と②グループや他学年との交流について課題が残った。探究学習においては、教科で学んだ知識技能や思考する方法を生かし、探究することが求められる。例えば、社会科で得たフランスの知識技能を使ってフランスの環境問題について考え、根拠をもって分かりやすく伝えることが考えられる。また、探究するためには他者と関わり合いながら、考えをより多面的・多角的にしていくことも必要だろう。今年度は教科横断的な視点での授業改善とグループでの交流や他学年との交流方法をより工夫していかなければならない。

今年度の研究は「今とオリパラとわたしと未来」をテーマに、中学部では「日本×フランス=∞」についてオリンピックと関連付けながら探究学習を展開している。子供たちは2024年のパリオリンピックをどのようにデザインすることができるのか探究することを通して、自分のこれからのよりよい生き方について考えていく。この探究学習をどのように英語科での学習に結び付けることができるだろうか。

英語科ではUnit 1で“Sports for Everyone”という単元が設定されている。ここでは、国枝慎吾選手や上地結衣選手についての英文を読み、障がい者スポーツについての理解を深め、人々を結びつけるスポーツの力について考えることが求められる。この単元で得た知識は、スポーツという点でオリンピックと内容が重なるため、総合的な学習の時間（探究）と横断的に関わり合いをもたせることができると考えた。具体的には、「学びの地図」において、生徒が思考を広げていくためのよい情報となり得たり、提言フォーラムで発表する際のプレゼンテーションの向上に生かせたりするだろう。

本実践では英語科での探究的な学びを達成するために、プロジェクト型学習を実践する。東野・高島(2011)によれば、プロジェクト型学習は、ある特定の目標に向かって課題解決を行い、他者との関わり合い・協調を重視しながら、児童の主体的・創造的な学びを促す学習形態である。また、村野井(2017)は「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための授業タイプとして「教科書本文を土台にして理解活動と表現活動を融合させた授業」と「調べ学習を基にしたプロジェクト型の言語活動を行う授業」の2つを挙げている。これらの授業を組み合わせることによって「見方・考え方」を育成し、「主体的・対話的で深い学び」を可能にできるとしている(p.43)。従って、プロジェクト型学習を実践することで探究的な学びを目指すことができると考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

① プロジェクト型学習

Beckett and Miller (2006) は複雑な概念であることからプロジェクト型学習を1つに定義することは難しいとしている。しかしながら、プロジェクト型学習が効果的に行われるために必要な要素として、「最終的な発表や作品作りなどがある」、「目標言語を用いて情報収集、分析、報告などを行うことによって学習者に自分の学習に責任をもたせる」、などを挙げている (p. 24)。本単元では、Beckett and Miller (2009) や Buck Institute for Education (2009) の『PBL Starter Kit』および Hale (2020) の『Active Learning for Language Teachers Week 2 Lecture』を参考に、以下のような要素を取り入れ、プロジェクト型学習を展開していく (表1)。

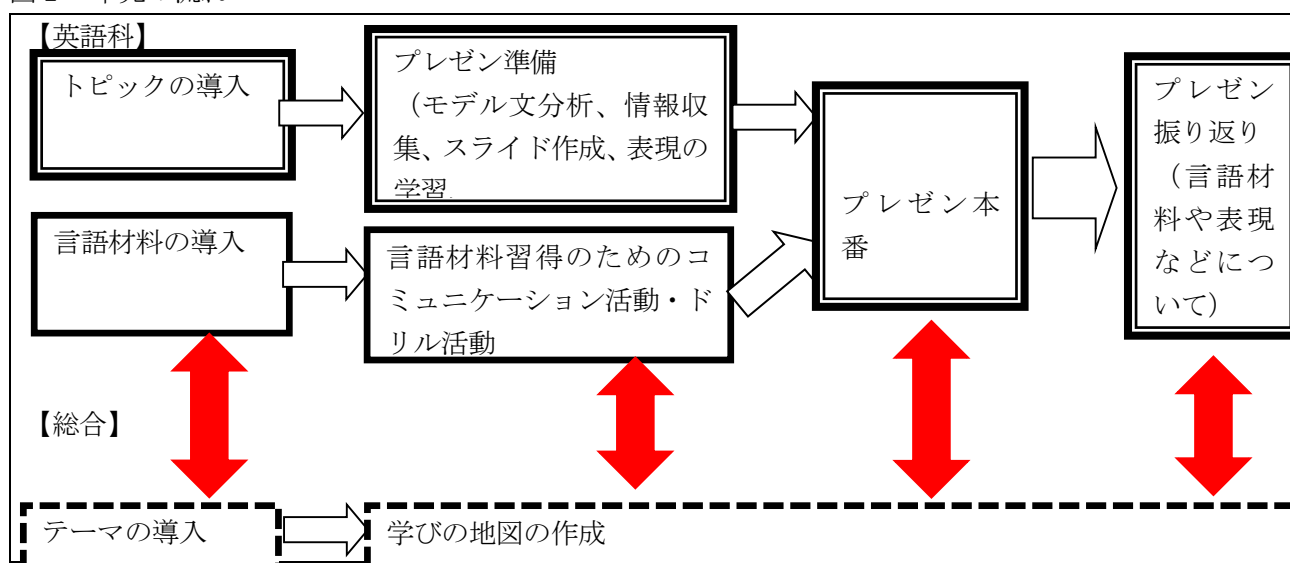
表1 本単元におけるプロジェクト型学習達成のための基本要素

要素	本単元における取り組み
Challenging problem or question (問題解決する価値のある問いである)	東京オリンピック・パラリンピックに出場する選手について調べ、その選手について説明する課題を設定した。総合的な学習の時間で扱っている内容でもあるため、生徒は高い意欲を示すと考えられる。
Final product (最終的な発表や作品作りなどがある)	単元の最後に、全校生徒に向け東京オリンピック・パラリンピック出場選手を紹介するプレゼンテーションを設定した。
Critique and Revision (プロジェクトについて、教師や友だちからフィードバックをもらう。そのフィードバックを元に、プロジェクトを改善する)	発表前にリハーサルを行い、以下の3つのフィードバックを与える。 ① 教師：評価基準表を使いながらリハーサル時点での評価状況を伝え、本番に向けた改善点を明確にさせる。 ② 仲間：各チームで内容を見合い、お互いに内容についてアドバイスし合う。 ③ 自分：自分たちのリハーサル場面を動画に撮影して見ることで、より具体的に本番に向けて改善できるように工夫した。

② 単元構成の工夫

以下のように英語科の授業と総合的な学習の時間 (探究) を関わらせながら単元を展開する (図1)。

図1 単元の流れ



③ プレゼンテーションスキルの指導

プレゼンテーションスキルの指導内容を JACET 関西支部教材開発研究会（2004）および眞田（2010）を参考に設定した（表 2）。

表 2 到達目標と指導内容

指導内容			到達目標
Unit	Physical / Oral Aspects	Visual Aspects	
Unit 1	①Eye-contact ②Gesture ③Volume	①Picture	① 3 分以上で発表することができる。 ②自己紹介することができる。 ③写真やグラフを英語で提示することができる。 ④写真やグラフを英語で説明することができる。 ⑤Introduction（英語で導入すること）ができる。

④ 評価の共有について

本実践では、単元のオリエンテーションにおいて、単元のゴールとなる姿を子供たちと確認し、どのような資質・能力が高まるのかを明確にする（表 3）。また、評価規準を子供たちに提示することで、より具体的な見通しを持って授業へ参加できるようにした。

表 3 子供たちが作成する発表原稿内容の例

Opening	Hello, everyone. My name is Yutaka Ishiguro. Do you like wheelchair tennis? Today, I'm going to tell you about famous wheelchair players.
Body	Wheelchair tennis is an exciting Paralympic sport. Japan has some really famous players. One example is Kunieda Shingo. He has won many world championships. I watched some videos of his matches. I was amazed at his power and speed. However, Mr. Kunieda says, "Sometimes people say playing tennis in a wheelchair is amazing. It makes me uncomfortable. We're playing tennis just like other people." Another well-known player is Kamiji Yui. She became the youngest Grand Slam winner in 2014. She once said, "I want to keep smiling when I play. Smiles keep me positive." Her smiles keep us positive, too. These two players remind us of the power of sports. Everyone can enjoy sports, and playing and watching them makes people happy and positive.
Closing	Now, I hope you have become interested in wheelchair tennis. Thank you for listening.

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ① 英語科の授業 Unit 1 の終了後、英語科で学習したプレゼンテーションスキルが総合的な学習の時間で発表する際に生かされている。
- ② 英語科の授業 Unit 1 の終了後、英語科で学習した内容が総合的な学習の時間で作成している「学びの地図」に生かされている。
- ③ 総合的な学習の時間（探究）で得た情報が英語科で作成する発表原稿に生かされている。

3 研究の実際

(1) 実践1 (英語科)

オリンピック・パラリンピック選手を紹介しよう (Unit 1 Sports for Everyone NEW HORIZON ENGLISH COURSE 3)

① プレゼンテーションの導入～準備

教師のデモンストレーションを行い、プレゼンテーションの準備を開始した。その後、教師のモデル文をペアで分析してプレゼンテーションの流れを確認し、トピック (東京オリンピック・パラリンピックに出場する選手を全校生徒に英語で伝える) を与えた。生徒は紹介したい選手をペアで選び、インターネットなどを通して情報収集をした。総合的な学習で「学びの地図」を作成しているため、比較的スムーズに選手を選ぶことができた。



その後、集めた情報を元にプレゼンテーションの原稿とスライドをペアで作成した。また、プレゼンテーションで使う表現などに関しては、プリントを配布した。英語科の授業で得た情報について、総合的な学習の時間でも活用するように促した。

② リハーサル～推敲

リハーサルは他ペアの前で行い、教師や他のペアから発表態度や内容に関してアドバイスが与えられた。その後、リハーサルを録画したものを生徒自身で分析し、本番のために原稿やスライド、発表態度を改善させた。ほとんどのペアが目標である3分以上を達成することができたが、プレゼンテーションスキルに関して、改善の余地が見られた。またスライドに関しては、どのように写真を見せたら聴衆に伝わりやすいかを考えさせ、写真だけではなくジェスチャーなどを加えることも指導した。

③ 本番～振り返り

本番は全校児童生徒が視聴しているため、生徒は目的意識をもって本番に取り組むことができた。本番では4分～5分程度のプレゼンテーションを行うことができた。



(2) 実践2 (総合的な学習の時間)

① 「学びの地図」作り

オンラインでの講演やインターネット等を活用しながら、子供たちは自分なりの「学びの地図」を作成していった。特にオリンピック組織委員会の高谷正哲様とオリンピック金メダリストの具志堅幸司様の講演は有益であり、子供たちの思考が広がっていくのが分かった。また、子供たちの英語科で学んでいることが生かされるよう、学習内容を意識するように促した。しかし、英語科ではスポーツ選手に特化して調べていたため、「学びの地図」にどのように生かしていくかが指導者と

しての課題となった。また、総合的な学習の時間で得た情報を英語でのプレゼンテーションへ生かすように指導した。

② 新聞づくり

「学びの地図」からさらに探究してみたいものに関してテーマを選び、子供たちは新聞づくりを始めた。子供たちはオリンピックと環境問題や経済問題、さらに人種問題などをテーマとして選んだ。新聞づくりでは、調べていて興味をもったところや、疑問に思ったところなどについて探究しながら、自分の考えを深めていった。

③ 学級内新聞発表

学級内で作成した新聞を共有し、よりよく推敲するために発表会を行った。発表の際には、英語科で学んだプレゼンテーションスキルを意識するように促した。子供たちはジェスチャーなどを入れながら、相手に伝わりやすいように工夫しながら発表をしていた。また、発表後はペアから改善点などをフィードバックさせた。



(2) 研究テーマにかかわる評価

①「英語科の授業 Unit 1 の終了後、英語科で学習したプレゼンテーションスキルが総合的な学習の時間で発表する際に生かされている」について

→発表形態が違ったため、新聞発表では評価することが難しいが、聞き手を意識して発表する様子や、ジェスチャーやアイコンタクトをしながら発表する様子は、英語科の授業で指導した内容が生かされていたのではないだろうか。また、新聞発表前に「プレゼンテーションで大切なことは何か」と質問すると、ほとんどの生徒が答えられていたので、他の発表場面でも今後生かされることを期待したい。

②「英語科の授業 Unit 1 の終了後、英語科で学習した内容が総合的な学習の時間で作成している「学びの地図」に生かされている」について

→スポーツ選手に限定されていたため、あまり効果は得られなかった。また、毎回の授業で教科横断的な視点を生徒に意識させるような指導を徹底することができなかった。

③「総合的な学習の時間（探究）で得た情報が英語科で作成する発表原稿に生かされている」について

→総合的な学習の時間では、自分との生き方と関わってどのようにパリオリンピック・パラリンピックをデザインするかとうより高次の思考が必要とされる探究学習を行っているが、英語科の発表内容は、調べた情報を発表するだけの内容に留まってしまった。

4 考察

(1) 成果

本実践は英語科と総合的な学習の時間（探究）の教科横断的な視点での授業改善を目指し、プロジェクト型の学習を取り入れて実践を行った。成果としては、英語科の授業で学んだプレゼンテーションスキルが総合的な学習の時間でも生かされたことが挙げられる。発表形式は違ったが、アイコンタクトやジェスチャーなど、英語科の授業でプレゼンテーションスキルとして指導していたことが総合的な学習の時間でも生かされていた。今後は、提言フォーラムで作成するプレゼンテーションツールの作成の際にも、英語科で学んだ内容が生かされるように注意していきたい。

(2) 今後の課題

英語科の学習内容を総合的な学習の時間とつなげることに課題が残った。スポーツやオリンピックという共通のテーマがあったにも関わらず、子供たちにつながりを意識させることができなかった。改善策としては、単元の導入や振り返りの際に、英語科で学んだことがどのような他教科で生かされるかを子供たちに考えさせることが挙げられる。本実践では、プロジェクトの過程では意識させることができたが、振り返りの際などには、他教科でどのように生かせるかなどについては意識させていなかった。今後は子供たちが英語科における学び方をどのように他教科へ応用していくことができるのかを理解させたい。

さらに、総合的な学習の時間に得た思考方法を英語科で生かすことにも課題が残った。東京オリンピック・パラリンピック選手を紹介するプレゼンテーションの内容に、総合的な学習の時間で行っているような「自分の生き方と関わってなぜその選手を選んだのか」などの高次な思考を必要とするような表現はなかった。原因としては、生徒と分析した例文にそのような表現がなかったことが考えられる。今後は、教科横断的な授業改善を行う場合には、それぞれの教科の評価規準を照らし合わせ、相互的に子供たちの力が伸びていくように計画をしていかなければならない。

〈引用文献・参考文献〉

Beckett, H, G. and Miller, P, C. (2006). Project-Based Second and Foreign Language Education: Past, Present, and Future. USA: Information Age Publishing.

Buck Institute For Education. (2009). PBL Starter Kit. California: Buck Institute For Education.

Fried-Booth, D, L. (2002). Project Work. Oxford: Oxford University Press.

George Mason University (2018). The American English (AE) E-Teacher Program: Teaching English to Young Learners.

Hale, C, C. (2020). Active Learning for Language Teachers Week 2 Lecture, Active Learning for Language Teachers 2020

JACET 関西支部教材開発研究会（2004）.『Power Presentation 英語でプレゼンテーション』東京：三修社.

Spring 資料，国際教養大学

眞田弘和 (2010).「英語プレゼンテーションに特化した授業による論理的思考能力を高める試み【共同研究】」『STEP BULLETIN vol.22, pp. 161-181』東京：EIKEN BULLETIN

村野井仁 (2017) .『英語教育における「見方・考え方」と「主体的・対話的で深い学び」』「教室の窓」

東京：東京書籍林裕子・倉富裕太・田中彰一（2016）.「小学校外国語活動におけるプロジェクト型授業の試み—語彙知識と外国語学習意欲に与える効果について—」『佐賀大学教育学部研究論文集』第1号，65-76.

東野裕子，高島英幸（2011）.『プロジェクト型外国語活動の展開—児童が主体となる課題解決型授業と評価—』埼玉：高陵社書店出版

フランスと日本を繋いだグローバルな交流の実施について 小学部6年の計画と活動（取り組みの様子）

1 はじめに

本校では、令和元年度より校内研究の主題を「世界で活躍するグローバル人材の育成」と設定し、以下の4つの柱で研究を行ってきた。

- ① 本校におけるグローバル人材育成に必要な資質・能力とは何か。
- ② 探究単元の開発推進のための対話的で深い学びの実現と学級づくり。
- ③ 単元づくり（探究単元）のためのカリキュラムマネジメント。
- ④ 汎用性のある小中一貫探究単元の開発（IBの理念を参考）。

そして、すべての学習・活動において以下の5つの「探究のプロセス」を意識し、年間を通して、探究のプロセスを大切にして探究学習を進めてきた。

探究のプロセス

- ① 課題の設定：体験的な活動等を通じて課題意識をもつ
- ② 情報の収集：必要な情報を取り出したり、収集したりする
- ③ 整理・分析：収集し、取り出した情報を整理、分析する
- ④ 交流（自己実現の場）：発表の場・共有の場・吟味の場とする
- ⑤ まとめ・表現：気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

昨年度は、探究学習の成果を提言フォーラムという形で発信して一定の成果を見いだすことができた。一方で以下の点が今年度の取り組みの改善点ととらえ、研究を進めている。

今年度の単元構想を、テーマを変えた場合や各教科と総合的な学習の時間（探究）とを横断的に扱う関わり方の有用性の視点で再検証することで、いかなる場所、いかなる状況下においても探究学習を深める指導のあり方（汎用性のある指導のあり方）を研究していく。

コロナ禍の状況にもよるが、活動の仕方の工夫をしていくとともに、フィールドワークでの体験的な活動や情報の収集を積極的に取り入れていく。

パリ日（本校）から、日本、ヨーロッパ、世界へと提言した内容をより具体的に外部に横展開していく方策を見いだしていく。

2 日本との交流を行うまでの活動について

本校では、今年度の共通のテーマを「今とオリパラとわたしと未来」と設定し、以下の学習・活動を行ってきた。

4月「課題の設定」

「学びの地図」の書き方を知る。

オリンピック・パラリンピックに関する資料の視聴

「学びの地図」づくり①

5月「情報の収集」

東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会のスポークスパーソン高谷正哲様の講演

「学びの地図」づくり②

6月「情報の収集」「整理・分析」「交流」

ロサンゼルスオリンピック男子体操総合金メダリストの具志堅幸司様の講演

「学びの地図」づくり③

情報の収集・整理を通して「新聞づくり」を行った。

今年はオリンピック・パラリンピックの東京大会が1年延期されて実施されるようになったこともあり、日本の小学生がオリンピック・パラリンピックに対してどのような思いを抱いているのかという視点を探究学習に取り入れることができないかと考えた。そうした中で小学部6年生が、探究のプロセスを踏んで作成した新聞を基に日本の小学生にオリンピック・パラリンピックに関する情報を伝えたり、日本の児童の意見を尋ねたりする機会を得ることができた。

以下、交流の内容や交流から得た情報を校内に還元したことなどについてまとめたい。

3 日本の学校との交流について

(1) ねらい

- ① 日本在住の児童や在外の日本人学校の児童が交流を進め、パリ日の児童が探究している内容について批判的な意見や素直な疑問などをやり取りする中で今後の探究をより良いものへとしていく。
- ② 年間を見通してどのように思考が変化したかなど子供たちの「進化」(アップデート)を対外的にやり取りする中で強化していく。
- ③ 自分たちの考えを発信し、多様な考えや意見を受信することにより、相手が伝えたいことや相手の意図を理解し、自身の考えをより深めていく。

(2) 交流先の学校(対象学年)

鹿児島県姶良市立漆小学校

(3) 本校の対象学年

パリ日本人学校 小学部6年

(4) 交流の実施方法について

オンライン会議アプリケーションの「ZOOM」を用いて日本とフランスでミーティングを行う。

(5) 交流の日程と内容について

※ ()内は日本時間

第1回目： 令和3年 6月18日(金) 8:25~8:50(15:25~15:50)

パリ日本人学校の紹介(情報発信)

日本とフランスの時差を考慮すると、限られた時間の中で交流を行うこととなった。1回目の交流では、本校の学校紹介を行った。本学級の児童は、年間行事に位置付けられている1年生を迎えるで「パリ日クイズ」を行った。その際に作成したパワーポイントの資料を活用して交流先の児童に対して、本校の施設や、行事の紹介を行いながら、顔合わせの時間を設けた。



第2回目： 令和3年 6月24日(木) 8:25～8:50(15:25～15:50)

始良市立漆小学校の学校紹介(情報受信)

2回目の交流では、交流先からの学校紹介や漆小学校にまつわるクイズを出題していただいた。

本校の児童は、全国から集まっているので、地方の文化の話題になると興味深そうにクイズに参加していた。

田植えの様子や、その地方で見られる特色ある動植物について紹介を受けた。経験したことのない子供たちにとっては興味深い内容だったようである。紹介を受けた後、内容について、意見交換を行った。



第3回目： 令和3年 7月16日(金) 8:25～8:50(15:25～15:50)

オリンピック・パラリンピックをテーマに探究学習している取り組みについて情報を発信し、交流先の学校から疑問や意見を受けて今後の学習に生かす交流3回目の交流を行うまでに、オリンピック・パラリンピックについて5月、6月に行った2回の講演を踏まえて「学びの地図」を作成し、情報を整理しながら、自分で設定したテーマに基づいて新聞づくりを行った。

その新聞の内容について代表児童2名が探究学習の成果を発表し、交流校の児童に意見を求めたり、質問を受けたりしながら、意見交流をした。



4. 日本の学校との交流を終えて

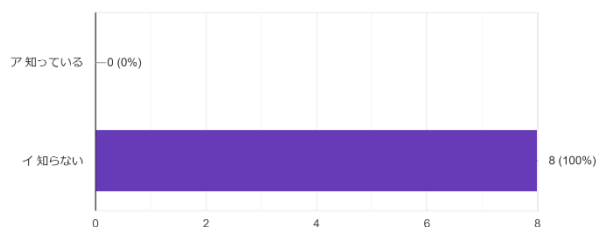
(1) 日本の学校からの反応

右の2つのグラフは、オリンピック・パラリンピックについて本校の児童が発表した内容を受けて交流先の学校がオリンピック・パラリンピックに関するアンケートを実施し集約した結果の抜粋である。

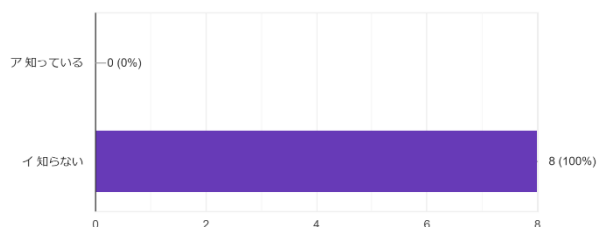
上のグラフは「どれぐらいの国がオリンピック・パラリンピックに参加するか知っていますか」という質問についての回答をまとめたもので、「知らない」と答えた児童が全員だった。

同じように、下のグラフは「(オリンピック・パラリンピックで) どれぐらいの種目が行われるか知っていますか」という質問に対する回答をまとめたものである。この問いかけに対する回答も「知らない」と答えた児童が全員だった。

3. どれぐらいの国が参加するか知っていますか。
8件の回答

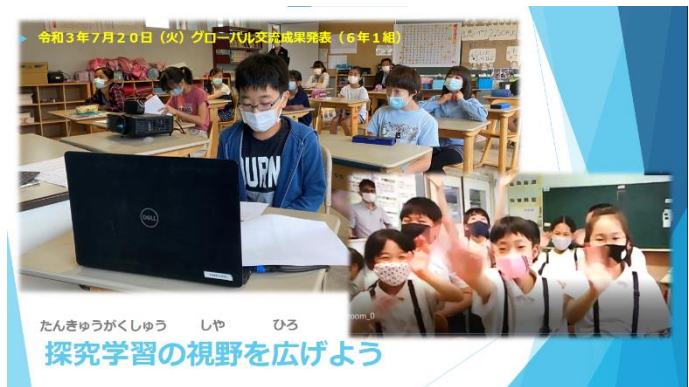


5. どれぐらいの種目が行われるか知っていますか。
8件の回答



(2) 校内への還元

交流先の学校の児童から受け取ったアンケートの結果から、オリンピック・パラリンピックが日本でされるといっても興味をもって調べなければ、参加国の数や競技の内容については意外と知られていないということが分かった。こうした結果やこれまでの探究学習の成果を全校に紹介する時間を設けた。



【7月20日 グローバル交流発表感想用紙】

最初にクイズを通して、オリンピック・パラリンピックのことを、
くわしく知ることができて、良かったです。あと、日本の小学生がクイ
ズに答えられたあのアンケートをとって、オリパラについて、日本の子どもがど
くらい知っているかを知ることができました。1人目の新聞発表では、オリパ
ラが1年延期になり、オリパラに出られなくなった人のところまで視野を
広げていて、すごいなと思いました。オリパラはかなりいい面を
報道されていたイメージだけど、また悪い面でも環境が関係している
ことに驚きました。 3年 6番 氏名

【7月20日 グローバル交流発表感想用紙】

六年生のみなさん、発表ありがとうございました！クイズなど楽しい
部分もあり、日本の小学校との交流での出来事や東京オリンピックに関する環
境問題、また命運を感じたことなど様々な話を聞けてとても楽しい時間であ
った！私も自身も学ぶことができました。環境問題はただでなく政治問題、ハロ
オリンピックと東京オリンピックの各国の問題にも触れ、くわしく状況を説明し解決策
も述べていて、すごく面白くて興味深いことはかりました。ロボットやAIの進歩の速
さや想像力を生かした解決策、現実的な解決策、どれも素晴らしいもので改めて
発表ありがとうございました！ 中3 年 14番 氏名

成果発表を行った後、本校の児童生徒から寄せられた感想の一部である。その中には、日本の児童がオリンピック・パラリンピックにたいしてどのような考えをもっているのかを知ることができたという感想や、交流を通して得られた多様な考えを聞くことができて参考になったという肯定的な意見が多かった。

5. 活動の成果と課題

(1) 成果

- 探究のプロセスをスパイラルで行う中で、その成果を対外的に発信して、国外からの反応を得られたことが児童の学びの動機づけにつながった。
- 探究学習を進める中で、自分たちにとってもよく知らないことが日本の児童との交流を通して、明らかになった。

(2) 課題

- 時差の関係で互いの登下校の時間に留意する必要がある。本校の児童が登校してくるタイミングと日本の学校の児童が下校するタイミングが重なるため、今後はメールやビデオ等、時差を考えなくても良い方法についても検討していく必要がある。

(3) 今後の展開について

第3回の交流実施後も、交流を継続していくことで、互いの考えを深めていきたい。特に、東京オリンピック開催前後の日本の様子等や感想、パリオリンピックの開催に向けたアドバイスについても継続的に情報を交換して探究学習がより良くなるように展開させていきたい。

中学部新聞交流 計画案

1 ねらい

○①語学力・コミュニケーション力：

相手意識をもち、自分の伝えたいことに焦点を絞って、根拠を示しながらわかりやすく説明できる。

異文化を超えて対話し、行動することができる。

「根拠」を示しながら自分の伝えたいことを相手に「正確に」「効果的に」伝えることができる。
周りの雰囲気を感じる、物事を見るなどでその意味を推し測ったり、相手の協力を得たりすることができる。

○⑨課題発見・解決能力

自分で疑問を見出しつつ、探究のテーマを設定し見通しを持つことができる。

○⑦幅広い教養

もっている知識と新しい知識を比較しつつ、つなげて考え、意味を理解することができる。

社会生活を営む上で必要な広い知識と教養を蓄え、幅広く具体的に追求することができる。

○②主体性・積極性

話を聞きながら、自分の考えや問題意識を明確にし、質問や疑問を進んで発表している。

自分の役割や状況を考え、探索したり、疑問をもったり、質問したりし、予測をたてながら、今後の変化を確かめるための目的をもって行動することができる。

○④協調性・柔軟性

他者との違いを受け入れ、建設的な話し合いや交流ができる。

色々な場面に臨んでその変化に応じて適当に対応することができる。

○⑩チームワークとリーダーシップ

課題解決にあたってそれぞれの立場や考え方を尊重し合いながらチームで対応することができる。

明確なビジョンと目標を示し、周囲の状況や現状を把握しながらフォローしていくことができる。

2 中学部発表までの流れ

<学級内交流>

1年：9月2日（木）7校時 2年：9月2日（木）6校時 3年：9月3日（金）5校時

○学級のペア、グループでの発表練習を行う。

・【発表者】新聞の文字を追って読むのではなく、相手意識をもって内容を伝えることができる。

○学級全体（もしくは4～5人）で発表を行う。

・発表（1人3分以内） ＋ 話し合いの時間（2分） ＋ 切り替え（1分）

・司会を立て、発表者の視点が深まるよう質問や出す場面を設ける。

・【聞く側】相手の発表から自分の提言書につなげる視点をもって聞くことができる。

<学部内交流①>

9月7日（火）6，7校時

○学部内のグループ（5～6人）で発表を行う。

・発表（1人3分以内） ＋ 話し合いの時間（7分） ＋ 担当から指導講評（1分）

＋ 個人振り返り（2分） ＋ 切り替え（1分）

・学級での発表同様の視点をもって参加する。

・1グループに1年生（1～2人）、2年生（1～2人）、3年生（1～2人）が入り、計5～6人で編成する。

- ・グループの構成は、テーマ（分野）を考慮し、できるだけ違う分野で編成する。
⇒ 提言書の作成に向けて様々な視点から考え、取り組むイメージをもつことができるようにする。
- ・発表を聞く生徒は、ホワイトボードに発表において興味をもったこと、気になったこと、もっと知りたいことなどをメモし、発表後の話し合い時に活用する。
- ・担当者（教師）はホワイトボードシートを活用し、交流時に出た意見や疑問点をまとめる。
⇒ まとめたホワイトボードシートは掲示する。
- ・毎発表の最後に、「相手の発表を深める視点」（発表に対しての気づき、助言など）
「自分の生き方を見つめる視点」（探究する視点、考え方、提言の手段など）で、個人で深める。

<個人振り返り>

9月7日（水）7校時 15:45～16:00

<個人追求>

9月中旬

<学級（学部）内交流②>

10月上旬

<個人振り返り>

10月下旬

3 学部内新聞交流タイムスケジュール

14:15 各教室に移動する。

14:20 担当（教師）から指示を出す。 司会・司会が発表時の司会を確認する。

14:30 発表を開始する。

発表（1人3分以内） + 話し合いの時間（7分） + 担当から指導講評（1分）
+ 個人振り返り（2分） + 切り替え（1分）

14分×5人（4人）＝70分

※発表の終わったグループは、自分の発表や助言をまとめる。

15:40 担当から総評（発表の様子を見て総括）

15:45 各教室で、自分の発表や助言をまとめる。今後探究する内容を検討する（各教室で実施）。

16:00 解散

4 準備物

教師：棒磁石 ホワイトボードシートセット ストップウォッチ

生徒：拡大印刷した新聞 新聞 振り返り用ワークシート 筆記用具

個人用ホワイトボードセット

5 当日の指示

○ 役割 ⇒ 総合実行委員が中心となり、司会を行う。

○ 時間 ⇒ 発表（1人3分以内） + 話し合いの時間（7分）+担当から指導講評（1分）
+個人追求ワークシートにまとめる（2分） + 切り替え（1分）

○ 発表を聞く視点

・発表者の考えが深まるようにする（視点をもって聞く）

⇒ 発表者の話の中心を意識して聞く。発表者は何を伝えたいかを考えて聞く。

・自分の「提言」につながるように聞く。

⇒ 自分の提案や興味のあることとつなげて聞く。

○ 話し合いの視点

- ・交流（話し合い）の前に振り返り時の視点を確認する。
- ・新たなものの見方や、多様な捉え方ができるように、各自が調べてきた分野をもとに、感じたこと、さらに聞きたいことを積極的に聞く。
- ・話題をつなげたり、切り替えたりして深める（発言者の考えも聞く）。
司会者の取り回しの中で、対話形式の話し合いにする。
- ・前の発表者や身近なこととつなげ、共有できる話題を提供する。

○ 振り返りの視点

- ・ワークシートの「相手の発表を深める視点」（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）と「自分の生き方を見つめる視点」（自分の今後の発表に生かしていきたい視点，考え方，ものの捉え方など）を基に，毎回の発表ごとに振り返りを行う。
- ・発表者も自分自身の発表や交流（話し合い）を振り返る。

6 グループ

様々なテーマが入り，異学年を混ぜたグループ構成にすることで，探究テーマや発達段階の違いから生じる新たな探究の視点を共有し、多面的に考え，多角的にディスカッションしたりできるようにする。

教室	1 A 教室	2 A 教室	3 A 教室	総合教室	仏語教室
担当	研究主任				
	教諭 1	教諭 2	教諭 3	教諭 4	教諭 5
メンバー 左(テーマ) 右(内容)	1 A 女総司	1 A 男	1 A 男	1 A 女	1 A 男
	会場：開催地	会場：会場のその後	他：聖火	価値：ピクトグラム	環境：競技
	1 A 女	2 A 男総司	2 A 男	1 A 女	2 A 女司
	環境：開催のデメリッ	他：選手の人生	価値：開催中止問題	編入者	価値；オリンピック憲章
	2 A 男	2 A 女司	2 A 女総司	2 A 男司	3 A 女総司
	経済：衰退と打開策	価値：SOGIE と多様性	価値：オリパラ価値	環境：歴史と未来	環境：環境問題
	3 A 女司	2 A 女	3 A 男	3 A 男	3 A 女
	会場：招致	編入者	会場：開催までの道のり	経済：メリッ ト，デメリッ	価値：意
	3 A 男	3 A 男	3 A 女司	3 A 男総司	
	編入者	環境：メダル	環境：環境とお金	経済・環境：主 な影響	
	3 A 女 編入者	3 A 男 編入者			

7 司会の流し

- 「これから新聞交流を始めます。」 「●●さん、発表をお願いします。」（2～3分以内）
 - 「質問や感想、意見やアドバイスをお願いします。」（7分）
※発表が終わったら、すぐに次の人の発表に移らず、話し合いを深めたり、広げたりするために次のような言葉を投げかけてみましょう。
- 「●●さんの考えを聞いて、どう思いましたか。」

「○○という考えが出ましたが、●●さんはこれについてどう思いますか。」

「もう少し詳しく教えてください。」

「なぜそう思ったのですか。」

「○○ということですか。」

「他の意見や質問があれば、お願いします。」

「私（司会者）はこのように考えましたが、皆さんはどう思いましたか。」 など
- 「ありがとうございました。●●先生お願いします。」（1分）
 - 「ありがとうございます。」 「視点に則って、振り返りをしましょう。」（2分）
 - 「以上で●●さんの新聞交流を終わります。ありがとうございました。（拍手）」
 - 「次の発表の○○さん準備をお願いします。」（1分）

～ 中 学 部 新 聞 交 流 ～

年 A 組 番 名前

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つめる視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つめる視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つめる視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つめる視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つめる視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

自己の振り返り（交流を通して考えたこと、今後深めていきたいこと、提言書作成に向けて考えたことなど）	
---	--

～自由メモ～	
--------	--

※それぞれの発表に対してメモをしていき、交流につなげていく。

※小学部も同様の流れで計画・活動をしていく。

令和3年度 探究「今とオリパラとわたしと未来」 ～**中学部新聞交流**～

総合的な学習の時間学習指導案

1 単元名 中学部新聞交流

2 ねらい

- ① 語学力・コミュニケーション力
 - ・相手意識をもち、自分の伝えたいことに焦点を絞って、根拠を示しながらわかりやすく説明できる。
- ② 主体性・積極性
 - ・話を聞きながら、自分の考えや問題意識を明確にし、質問や疑問を進んで発表している。
- ③ 協調性・柔軟性
 - ・他者との違いを受け入れ、建設的な話し合いや交流ができる。
- ④ 課題発見・解決能力
 - ・自分で疑問を見出しつつ、探究のテーマを設定し見通しをもつことができる。
- ⑤ チームワークとリーダーシップ
 - ・課題解決にあたってそれぞれの立場や考え方を尊重し合いながらチームで対応することができる。

3 準備物(Ⓜ：手立て)

- 新聞を模造紙大に拡大したもの
 - Ⓜ 図示できるようにすることで、発表者は自分の考えを示しやすくし、視覚的にも聞き手の発表内容の理解を促せるようにする。
 - ミニホワイトボード
 - Ⓜ 聞き手が発表を聞く際に気になることを書き留められるようにすることで、後の意見交流の際の材料や発表内容の整理ができるようにする。
 - ホワイトボードシート
 - Ⓜ 意見交流の内容を教師がまとめることで、視覚的にディスカッション内容を把握できるようにする。意見交流後に発表者が話し合いを振り返られるようにする。
 - ワークシート
 - Ⓜ 新聞交流の初めに「相手の発表を深める視点」「自分の生き方を見つめる視点」をもたせることで、ディスカッションの内容をより深めていけるようにする。
新聞交流後に「自己の振り返り」を行うことで、探究テーマの再確認やディスカッションでの学びをまとめ、今後の活動につなげられるようにする。
 - 司会者の話形シート
 - Ⓜ 司会者のスムーズな進行と司会者のディスカッション時の参加者への意見の促しにより、1対複数のディスカッションやそのディスカッションを深められるようにする。
- 《その他の手立て》
- 様々なテーマが入り、異学年を混ぜたグループ構成
 - Ⓜ 探究のテーマや発達段階が違う点を生かすことで、新たな視点を得て、多面的に考えたり、多角的にディスカッションしたりできるようにする。
 - 話し合う時間の確保
 - Ⓜ 様々な視点でのディスカッションやより深く探究できるように、時間を十分にとるようにする。
 - ・評価基準表(ループリック)の活用
新聞交流時に生徒とループリックを共有し、求められる姿を明確にした。

4 本時の流れ

児童・生徒の活動	○ 教師の支援 ◆ 評価
1 本時の流れを確認する。 ・準備物の使い方 ・ディスカッションの方法 2 発表する。 ・司会者の進行により、新聞発表を行う。 ・新聞を読むだけでなく、新聞に書かれていない根拠の説明なども加えて発表を行う。 3 ディスカッションする。 ・司会者の進行により、聞き手は、疑問に思ったことや、より説明してほしいことを質問する。 ・発表者が答えるだけでなく、他の聞き手もいろいろな視点から意見を出す。 ・司会者はそれらの意見をまとめつつ、他の切り口から発表者の考えを深められないか話題を掘り下げていく。 4 教師からアドバイスを受ける。 ・司会者が話し合ったことをまとめる。 5 まとめる。 ・発表者、聞き手それぞれの立場でディスカッションを振り返る ※以下、発表人数で2～5を繰り返す。	○担当(教師)から、発表者、聞き手のそれぞれの視点で、本時の目的や目当てを説明し、会の流れを確認する。 ○声の大きさや話すスピードなど聞き手にしっかり伝わっているかを発表者に助言する。 ◆① 語学力・コミュニケーション力 (活動の様子、ミニホワイトボード) ○質問等が多く出ない場合は、教師が補助的に参加する。 ○司会者がうまく意見を回せないときは、教師が助言する。 ◆② 主体性・積極性 ◆③ 協調性・柔軟性 ◆⑤ チームワークとリーダーシップ (活動の様子、ホワイトボードシート) ○教師からグループで考えつかなかった視点でのアドバイスを行う。 ○「相手の発表を深める視点」「自分の生き方を見つめる視点」でディスカッションを振り返る。 ◆④ 課題発見・解決能力 (ホワイトボードシート、ワークシート)

5 関連する教科

国語：「話の構成を工夫する」「聞き上手になろう」「資料を示してプレゼンテーションをする」

「異なる立場から考える」「スピーチで社会に思いを届ける」「話し合いを効果的に進める」

社会：経済、政治、紛争、環境、人種差別、環境など

数学：「変化と対応」「確率」「資料の活用」など

理科：環境、自然、温暖化など

英語：国際理解

研究の実際

<学級内交流>

発表に自分の主張と提案性をもたせると共に、ディスカッションの際の視点や行い方を理解させ、学部内交流で様々な視点で活発なディスカッションを行える素地を作ることを目的に学級内新聞交流を行った。

初めにペアでの発表練習を行った。ペアという1対1でのやりとりは、緊張や恥ずかしさを軽減させ、発表者自身が自分の主張や発表の流れを確認させやすい。また、聞き手の反応を直接受けることができるので、自分の発表の流れや発表の仕方の修正がしやすくなる。写真1の発表者の姿からわかるように、学級のグループ内交流で、新聞を指さしたり、発表の流れを考え強弱や抑揚を付けてたりして発表する姿からは、ペアでの発表練習が発表者に自信をもたせることやより良く自分の主張を伝えることに効果的であったとわかる。そして、発表者が自分の主張や提案性を増して行えたことで、その後の3分間のディスカッションがスムーズに始めることができた。例えば、環境という視点での提案に対して、聞き手の生徒が考えてきた経済面や文化、歴史的背景といった視点からその環境という提案に意見するなど、発表者が考えてこなかった視点での話し合いがなされた。ただ一方で、様々な視点からの意見は出たものの、1つの質疑に対して、1つの回答といった具合で、話し合いが単発で終わるという場面もあった。そこで、教師が発表者と聞き手の新聞の内容と考える視点の共通点や相違点などを紹介したり、意見を受けてどう考えるか、またそこで疑問に思うことをさらに突っ込んでどう話し合うかというやりとりを示したりした。併せて、一問一答の意見のやりとりと意見を交流し合いディスカッションすることの違いを明確に示しながら、新聞交流の場で臨む姿ややり方とともに、その新聞交流のあり方も改めて説明しながら学級内新聞交流を進めた(写真2)。



写真1：自信をもって発表する様子



写真2 意見交流の仕方の説明を聞く様子

<学部内新聞交流>

学部内新聞交流では、昨年度同様に、生徒に「語学力・コミュニケーション力」として、「相手意識をもち、焦点を絞って、根拠を示しながらわかりやすく説明する」ことを提示した。また、本年度は、意見交流を活発にすることで様々な視点から生徒自身が探究テーマを見出し、自ら探究し続けていけるように聞き手の視点である「話を聞きながら、自分の考えや問題意識を明確にし、質問や疑問を進んで発表する」ことも提示した。これらの目標は年度当初に昨年度の反省を踏まえて検討したもので、ループリックにまとめ、生徒にプリントにして配布している。そうすることで、生徒はいつでもその活動での目標を振り返り活動に臨むことができるようにし、機会があるごとに担当教師からも説明して身につけたい力が生徒自身で自覚し、育んでいけるようになると考えた。

学部内交流では、昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、より活発なディスカッションから生徒の探究的な学びにつなげていけるように、指導案にある手立てを講じた。

○ グループAでの実践

ねらいの①コミュニケーション力、②主体性と積極性については、令和元年度、令和2年度と研究を続ける中で念頭において指導を進めてきた。資料1の下線部①、⑦のように発表者の提言を受け、疑問点や課題点を認識して発表する姿はねらい①、②が確実に定着している姿としてとらえてよいと思われる。

ねらいである④協調性と柔軟性、⑤チームワークとリーダーシップについては、「グループとして1つの課題に共に向き合う姿」と「1つのテーマに対して他人とは異なる視点(時には逆の視点)でアプローチする姿」が必要だと考えた。資料1の下線部②は発表者の主張を受け止めつつも、主張の弱さを丁寧に伝える姿が表れた場面である。また、下線部④はグループ内で1つの課題に対して共に向き合う姿が見られた場面である。下線部①では、2つの事実を伝えるだけでなく、最後に自分の考えを添えて話をしていところも研究の成果の1つだと考える。

資料1：ディスカッションでのやりとり

【『オリンピックとは』の発表を受けて】

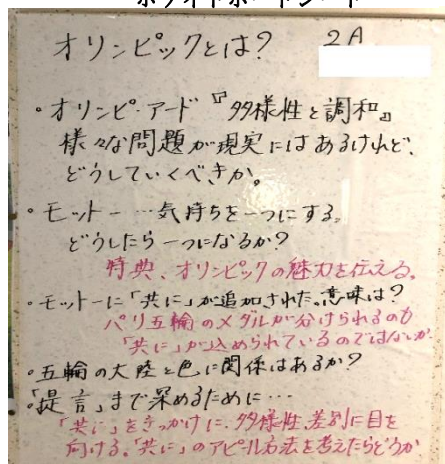
(ディスカッション時のホワイトボードシートは資料2参照)

生徒A：オリンピ・アードや気持ちを1つにするというモットー、などが詳しく述べられていたと思います。しかし、⑦提言としての発表者の主張部分が曖昧な気がします。

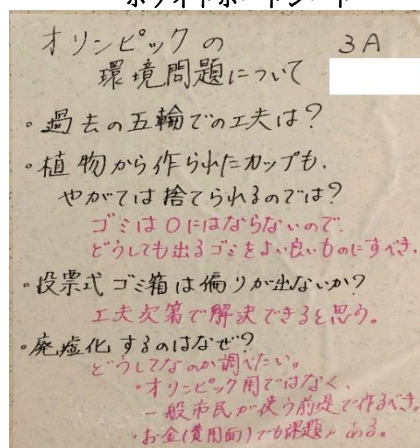
生徒B：主張すべきテーマをはっきりしたらいいと思う。「『モットー』として気持ちを一つにする。」という言葉があったので、どうしたら1つになるかを課題に改善策を考えていくのはどうかな？

生徒C：『モットー』に「共に」が加えられたことが発表の中でふれられていた。そして、パリ五輪のメダルが分けられることにも「共に」の思いが込められているのではないかという発表者の考えも新聞で書かれています。だからこの「共に」をテーマとして、これから調べを進めていったらいいと思います。例えば、「人々の多様性」、「民族や宗教の差別」、「『共に』をもっとアピールする方法」などを提言の中に盛り込んでいけば魅力のある提言書になっ

資料2：ディスカッション時の ホワイトボードシート



資料3：ディスカッション時の ホワイトボードシート



資料4：ディスカッションでのやりとり

【『オリンピックの環境問題について』の発表を受けて】(ホワイトボードシートは資料3参照)

生徒A：いろいろな環境問題が、オリンピック開催中だけでなく、開催後にも出てくることが分かった。より良い解決方法を考えていくことがオリンピックの課題なんだと思います。

生徒B：これまでのオリンピックを見ると、すごく良い施設が各国で作られていることが分かった。それなのに、今回の提言の中では廃墟化するという説明があった。どうしていい施設なのに廃墟化してしまうのだろう？

発表者：私もそれについて調べていきたいなと感じています。今回の交流のための新聞には載せられませんでした、少しずつ調べているところです。

生徒C：①私は調べていく中で、施設の問題にふれている記事を見かけました。廃墟化する課題として2つありました。1つ目はオリンピック用で作ってしまったために、オリンピック開催後の一般市民が使うことを考えられていないこと。2つ目は膨大な費用がかかってしまっているから、一般市民が利用するための費用が高くて利用率が悪いということでした。オリンピック開催後を考えて会場を作ることは大切だと思います。

学級内交流を経てからの学部内交流であったので、発表やその後のディスカッションはスムーズに行った。グループ内の個々のテーマを混合させて、異学年を交えて編成したことで、多様な視点からディスカッションを行うことができた。

ある生徒は、オリンピック開催について、発表者は環境面から開催におけるメリットを上げ、デメリットについての改善策を提案した。聞く生徒は、自分のミニホワイトボードに気になった点や自分の考えをメモし(写真3)、その後のディスカッションに臨んだ。ディスカッションは、発表者は拡大された自分の新聞を図示しながら、また聞いていた側は、自分のメモをもとに進められた。環境をテーマとしていなかった生徒が、文化的歴史的な側面から意見をしたり、経済的な側面からオリンピック開催のデメリットを指摘したりと、提案された改善策について多角的な視点でディスカッションできた(資料5)。また、異学年が混ざったグループで行ったことで、去年の新聞交流を経験した中学部2、3年生が中学1年生の司会者の進行をフォローする姿も見られたり、これまでの生活経験の違いをもとにしたディスカッションがなされたりした。

また、一人一人の新聞交流で、グループの担当教師も必要に応じて一人のパネリストとしてディスカッションへ補助的に参加したり、ディスカッション後にアドバイザーとして生徒の活動を評価したりした。これらの教師の動きは、生徒が浮かばない側面から考えをさらに深めさせた。そして、評価されたことで生徒自身のこれまでの取り組みが自信につながり、探究意欲をさらに高めた。

生徒が使用したワークシートの「・・・したい。」という記述からは、視点を与えてから新聞交流に臨ませたことが、発表後にそのディスカッションでの学びの整理につながれたことがわかる。そして、今回の新聞交流が、自分の考えたテーマを新たな視点から考えるきっかけを与え、探究意欲を高めることにつながれたこともわかる(資料6)。

○ グループCでの実践

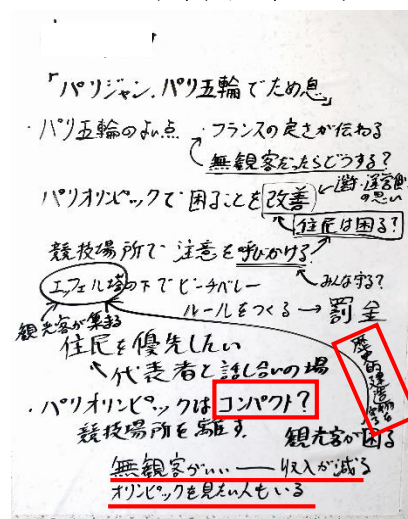
写真4のように、個々の発表新聞を拡大機で拡大することで、主張や提言を明確にして発表を進めた。「オリンピック会場におけるエコを考える。」について発表した生徒は、東京オリンピックでは、安全面を考えての競技場の新設があったため、この問題について話し合いが行われた。新設した会場はまだ続くコロナ問題に絡め、ワクチンの接種会場としての活用が良いのではという意見が出された。

また、太陽光パネルを新会場に設置することでの発電量は、17000世帯の1年分の電気がまかなえることに対する意見では、台風が多い日本では、破損などのデメリットのほうが多いのではないかと出され、発表者も考えが深まった。また、この意見に付け足す形で出てきたものに、台風や地震などの自然災害が少ないパリでの次のオリンピックには、太陽光パネルの設置はデメリットが少ないのではないかと意見が出て、話し合いが深まった場面であった。



写真3 ミニホワイトボードにメモする様子

資料5：ディスカッション時の ホワイトボードシート



資料6：ワークシートによる振り返り

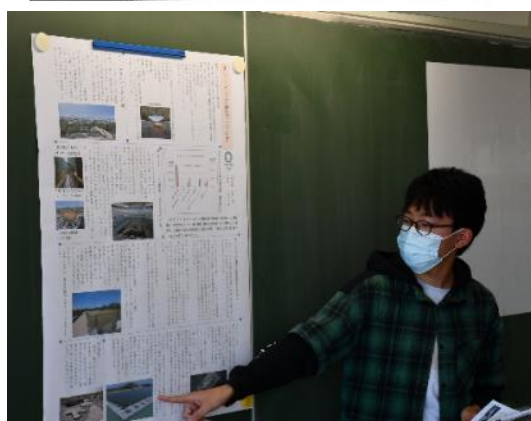
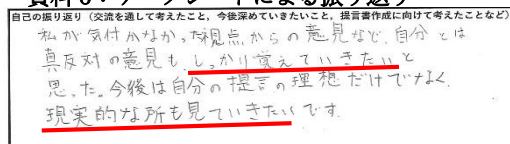


写真4：発表者の様子

○ グループDでの実践

グループ編成を、テーマを混合させて構成したことで、学級内で行われたディスカッション以上に、グループ内のテーマの違いから、それぞれが探究してきた知識を基にしたディスカッションがなされ、多角的な視点から捉えることができた。それに加え、異学年でのグループ構成がそれぞれの発達段階や経験を踏まえたディスカッションにすることができた。

ある生徒の「オリンピックの影響による私たちの提言」の発表では、たばこの害のことや先進国での開催地とその理由のことや経済と環境について説明をした。ただ、内容が様々な方面にいつてしまい、伝えたいことが何かを絞ったほうがよいという意見が出た。この意見をもとに、発表者は再度自身の探究テーマを見つめ直すことになった。これは、集まったグループのテーマが違ったことや異学年での構成であったことで、何を探究しているのかを聞き手がそれぞれの立場で吟味するディスカッションにすることができたという成果だと考える。また、教師が意見交換などを即座にホワイトボードや問題意識が明確になり質問や疑問が活発になった。(写真



写真5：ホワイトボードシートの
記入の様子

○ グループEでの実践

ある生徒が、これまでオリンピック・パラリンピックの差別への抗議について発表した。その中身は、これまではデモ活動が一般的なものではなく、もっと平和的な解決方法があるのではないかという視点を示したものであった。しかし、ディスカッションになると、この発表に対して、参加していた他の生徒から質問や意見が出されなかった。そこには、聞き手の生徒にとって、オリンピック・パラピックにおける「差別」とはどのようなものがあるのかが具体的に想像ができていない様子が見受けられた。そこで担当教師からアドバイザーとして「そもそも差別とは？」という点に着目させた。写真6の赤でなぞってある部分が発表者やその他生徒から出た意見である。出された意見が表面的なものであったため、ウェビングの手法を使いながら、「誰がどのような差別を受けているのか」という点に絞ってディスカッションを続けた。すると、参加している生徒からたくさんの意見や質問が出された。最後に、青で書かれた部分について話し合いを深めていく時間を設けた。発表した生徒は最終的に人種における差別について探究を進めていきたいと、明確にし、探究意欲を高めることにつながった。

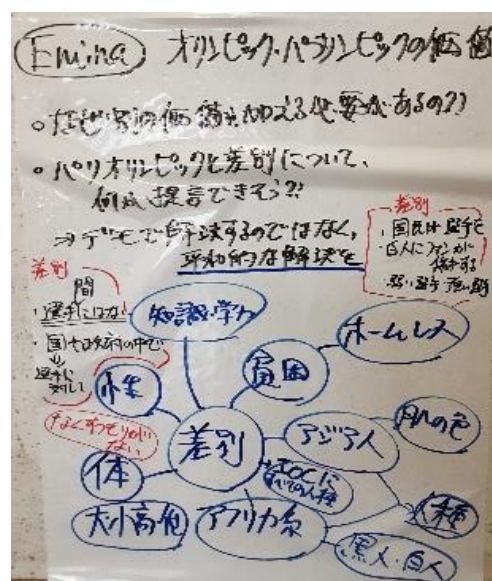


写真6：デイスカッション時の
ホワイトボードシート

は最終的に人種における差別について探究を進めていきたいと思うようになり、自身の探究するテーマを明確にし、探究意欲を高めることにつながった。

成果と課題

(1) 成果

- ・ 中学部1年から3年までのそれぞれの考えを聞くことができ、多様な考えを聞くことと、論理的な考え方で意見を組み立てる仕方を学ぶことができた。また、よりよい考え方に導く意見も多く発表され、発表者の考えや話し合いが深まる場面が見られた。
- ・ 担当教師がアドバイザーとしてディスカッションの視点を示したり、ホワイトボードシートを色を分けてまとめたりしたことで、生徒は発表内容の理解が促され、より積極的に自分の考えや疑問を交流させることができた。そのため、多くの生徒が今後の取り組みについて具体的な考えをもち、探究する意欲を高めることができた。
- ・ 「語学力・コミュニケーション力」や「主体性・積極性」を高める点において、ループリックを活用し、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえて、様々な手立てを講じたことで、生徒は発表する力と共に発表を聞き、考察する力を高めることができた。新聞交流後に自身のテーマをさらに探究していこうとする探究意欲を高められた点も大きな成果といえる。
- ・ 教師が生徒にディスカッションのより良いあり方を示したり、必要に応じてパネリストとして生徒と共に考察したりする機会を設けたことが、昨年度の新聞交流以上に深い学びを生むことにつながられた。

(2) 課題

- ・ 生徒主体の新聞交流を展開したことで、生徒は積極的に意見を交流した。そのため、一対一、一問一答形式の意見交流ではなく、一対複数でのディスカッションになり、着実に学びを深めることにつながられた。一方で、司会者の取り回し方で、ディスカッションの盛り上がりには大きな差が出てしまうことがある。また、教師のアドバイスの仕方によっては、生徒主体から教師主体のディスカッションになってしまう場面があったことは課題と考える。生徒の会を取り回す技能を日頃から高めることや、どの生徒にも司会の立場を経験しどのようにディスカッションに臨むことが良いかというあり方を経験的に身につけさせていくことで、より主体的に、より深く議論していけるようになると感じた。そして、教師がどの程度アドバイスするかを生徒の実態に即して事前によく検討し、指導するのか、参加するのか、見守るのかといった選択肢をもって教師の立場を考慮して新聞交流に臨むことが、活動をより充実させることにつながれると考える。
- ・ 異学年でグループを構成し、ディスカッションする時間を十分に確保するためにグループ人数も大きくならないように配慮した。そうすることでグループ内でより良く議論を交わすことができた。複数のグループができたことで、担当する教師が複数名にわたり、グループによるディスカッションの内容やその深まりに差が出たことは課題となる。新聞交流の進め方や考え方を統一して行ったが、それと共に日頃から生徒主体となるディスカッションの取り回しを意識的に取り入れていくことが重要になると考える。

令和3年度 探究「今とオリパラとわたしと未来」～小学部提言交流～

総合的な学習の時間学習指導案

1 単元名 提言作成と交流

2 ねらい

① 語学力・コミュニケーション力

- ・自分が伝えたいことを相手に正確に伝えたり、相手の伝えたいことを相手の意図を理解しながら聞いたりできる。

② 主体性・積極性

- ・自分の提言を完成させるために、試行錯誤を繰り返しながら、見通しをもって取り組んでいる。

⑧深い専門性

- ・興味関心をもった分野について深く追求し、知識・理解を深めることができる。

⑨ 課題発見・解決能力

- ・テーマに対する自分なりの意見や考えをもち、工夫・整理しながら提言を考えることができる。

⑫ メディアリテラシー

- ・情報メディアから得られる情報を自分の力で取捨選択し、活用することができる。

3 準備物(Ⓜ：手立て)

○ 学びの地図

- Ⓜ 講演の内容を学びの地図にウェビング形式で記録することで、講師の伝えたいことや自分が興味をもった内容を明白にする。

○ ワークシート

- Ⓜ ワークシートに自分や友達の考え、感想を記録させることで、授業のポイントや学習の流れ、自分が考えたことを理解できるようにする。

○ 提言書（起案）

- Ⓜ テーマに関する現在の課題を記録したり、解決策を考えさせたりすることで、提言を立てやすくする。

○ PC・プレゼンテーションソフト（PowerPoint）

- Ⓜ 検索の仕方やインターネットを使う際の注意点などの情報リテラシーを身に付けさせることで、興味をもったテーマについての情報を、インターネットを活用して適切に集められるようにする。
PowerPointを使った資料の作り方を指導することで、得られた情報や自分の考えを端的に表現された効果的な資料が作れるようにする。

○ プロジェクター・スクリーン

- Ⓜ PowerPointで作成した発表の資料を、プロジェクターを用いてスクリーンに映し出すことによって、聞き手が発表者の考えを理解しやすいようにする。

○ ミニホワイトボード

- Ⓜ グループ内や全体での発表の前に自分の考えをミニホワイトボードに記入することで、考えを明確にしたり、発表をしやすくしたりする。

○ ホワイトボードシート

- Ⓜ グループ内での発表の際にホワイトボードシートに発表内容を記録することで、他者の意見との相違点を明白にし、比較検討しやすくする。

《その他の手立て》

○ 様々なテーマが入り、隣接学年を混ぜたグループ構成

⊕ テーマや発達段階が違う点を活用することで、新たな視点を得てそれを自分の提言に生かせるようにする。

○ 感想を伝え合う時間の確保

⊕ 提言の感想を伝え合う時間を十分にとることで、他者の視点を深く理解し、それを自分の提言に生かせるようにする。

・ 評価基準表(ルーブリック)の活用

交流時に児童とルーブリックを確認し、学習の目標を明確にした。

4 活動の流れ～提言書作成～(全14時間)

児童・生徒の活動	○ 教師の支援 ◆ 評価
1 提言書作成の流れの確認(1時間) ・ 学びの地図 ・ 新聞 ・ 総合ファイル	○ 1学期に作成した学びの地図や新聞、交流の際に使用した付箋などをもとに提言書を作成することを伝える。
2 提言書の作成(3時間) ・ 「わたしたちは進化している・わたしたちは地球の上に立っている」概念学習。 ・ 提言の内容を考える。 ・ 提言の内容を決定する。	○ 「進化」について今までの学習や歴史・産業の観点からイメージさせる。(個人・全体) ○ 「地球の上に立っているということ」について今までの学習や私たちの暮らし・郷土の観点からイメージさせる。(個人・全体) ○ 現状の問題点と、それを解決するアイデアを出し、提言の内容を考える。(グループ・全体) ○ 「現状」「問題点」「提言の内容」「到達目標」を明確にし、提言書を作成させる。(個人) ◆① 語学力・コミュニケーション力 ◆④ 課題発見・解決能力 (ミニホワイトボード・ホワイトボードシート)
3 提言書に基づくパワーポイントの作成(9時間) ・ パワーポイント作成の仕方を学ぶ。 ・ 必要なデータを探し、資料として活用する。 ・ 発表をイメージし、アニメーションをつけ、ノート欄に原稿を入力し、作成する。	○ パワーポイントの基本的な操作について指導する ○ 検索の仕方や統計のデータについて指導し、効果的に資料を活用できるよう助言する。 ◆② 主体性・積極性 ◆⑫ メディアリテラシー
4 パワーポイントの完成(1時間) ・ パワーポイントの内容を確認する	○ 教師からアドバイスを行う。 誤字脱字・資料の使い方・アニメーションなど

5 関連する教科

国語：「伝えたいことに合う理由や資料を用意する」「説得力のある提案をする」

「自分の考えを明確にし伝え合う」

社会：歴史、人種差別、環境など

算数：「資料の活用」「平均」など

理科：環境、自然、温暖化など

英語・外国語活動：国際理解

6 本時の流れ～提言書の交流～

児童・生徒の活動	○ 教師の支援 ◆ 評価
1 本時の流れの確認	○本時のめあての確認。 聞き手・・・相手の発表を深める視点で、意見交流をし、意見や質問を積極的に伝える。 発表者・・・自分の提言について新たな課題を発見する。
2 提言書の発表（5分） ・パワーポイントを使って発表する。 ・聞き手は付箋にメモ(感想・質問・意見)を書く。	○ 声の大きさや話すスピードなど、適切かどうか、発表者に助言する ◆① 語学力・コミュニケーション力 (付箋・PC・プロジェクター)
3 意見交流(5分) ・聞き手は疑問に思ったことや、より詳しく説明してほしいことを質問する。 ・発表者だけでなく、聞き手もいろいろな視点から意見を出す。 ・発表者は新たな疑問や課題についてメモをする。 ※以下順番に2～3を繰り返す。	○質問が多く出ないときは教師が補助的に参加する。 ◆② 主体性・積極性 ◆③ 協調性・柔軟性
4 ふりかえり ・付箋を発表者に渡す。発表者、聞き手それぞれの立場で交流会をふりかえる。 ・本番に向けて調整するところや自分の課題を発見し、次のめあてをもつ。	○「相手の発表を深める視点」「自分の提言を見つめなおす視点」で交流会をふりかえる。 ◆④ 課題発見・解決能力

7 関連する教科

国語：「伝えたいことに合う理由や資料を用意する」「説得力のある提案をする」

「自分の考えを明確にし伝え合う」

社会：歴史、人種差別、環境など

算数：「資料の活用」「平均」など

理科：環境、自然、温暖化など

英語：国際理解

研究の実際

1 提言書作成

(1) 小学部3・4年生

まず1学期に書いたワークシートや新聞を振り返りながら、新聞作成や新聞発表交流の際に記録した「興味をもったこと」について想起させた。次に改めて「わたしたちは地球の上に立っている」という3・4年生のテーマをふり回り、テーマとオリンピックがどのように結びついているかの話し合いを行った。新聞作成の際に取り上げた「オリンピックによる環境破壊」や「競技施設の再利用」などからオリンピックがテーマと関連していることを児童が気付くことができた。次に、昨年度の3・4年生が作った提言書とプレゼンテーションの資料(PowerPoint)を見せて、到達目標をイメージできるようにした。昨年度の完成形を提示することで、授業外にも自主的に作業に取り組むなど、より一層身を入れて取り組む児童が増えた。そして、1学期の探求学習を通して興味をもったことを再度リストアップさせ、その中から提言を行うテーマを1つ設定させた。3年生では似たようなテーマを取り上げた児童同士でグループを作り、提言を考えさせた。4年生では同じテーマを扱う児童同士で情報共有させ、例えば同じメダルをテーマにしても、「景品としてのメダル」や「メダルの費用」、「メダルに含まれる金属」など、視点が異なることを理解できるようにした。その後テーマに関する課題をインターネットを活用して調べ、記録させた。テーマに関する情報が集まってから、プレゼンテーションの際の資料となるスライドと提言書を並行して作成し始めた。インターネット上にある、上手なスライドやプレゼンテーションを紹介した動画を見せて、ここでも完成形をイメージできるようにした。児童の中には紹介したプレゼンテーションの話し方を模倣しながら、学習した内容を保護者に伝える子がおり、意識の高まりを感じることができた。提言書とスライドが一通り完成したところで、児童同士で発表し合い、アドバイスを共有した。特に、「友達の提言に対して、あえていじわるな質問を投げかけてみよう」と児童に呼びかけ、「本当にできるの?」「実現するためのお金や時間はどうするの?」「もっと他に良い方法があるのでは?」などと提言の脆弱な部分(信憑性や確実性)を指摘し合うことで、提言をより強固なものにできるように工夫した。



写真1: 作ったスライドを使って発表し合う様子



写真2: 手本のスライドを見せて見通しをもたせる

(2) 小学部5・6年生

提言書の作成は、1学期に取り組んだ学びの地図や新聞交流の際に、自分が疑問に思ったことや興味をもったことをふりかえるところからスタートした。まずは、学びの地図や新聞交流の際のメモを見つめ、オリンピックが抱える問題点や、今後どのような未来を築いていきたいかなどについて考える姿があった。そして、「パリオリンピック・パラリンピックをデザインしよう」というテーマと「わたしたちは進化している」という概念を結び付けて考えるために、「進化ってどういうこと?」と投げかけてみた。すると、「便利になること」「機械化が進むこと」など、人間や技術は進化しているものの、環境問題など様々な分野でいまだ解決できていないことがあることに気付くことができた。そして、「持続可能な社会」や「国際交流」などの観点からオリンピックを通して未来を考えたいという思いが高まった。



写真1: パソコンで資料を探す様子

また、今までにない新しいアイデアを考えようと、問題に対する課題策として提言を考えた際にはグループやクラス全体で話し合いながら、子供たちの豊かな発想を共有しあい、提言書の内容を一人一人が考え、決定した。提言書の構成ができるといよいよパワーポイントで作成していく。まず初めに、「プレゼンテーションの極意」と名付け、見やすいパワーポイントの作り方を考える学習を行った。作成の途中段階には友達同士や教師に見せることで相手に自分の伝えたいことが伝わるかどうかと、確認する姿が見られた。また、自分の主張に説得力を持たせるために、必要なデータを探し、効果的に使用できているかを考えながら作成を進めた。

聞き手に説得のあるプレゼンテーションをするために

発表者

わかりやすさ

全体の構成

- ・課題
- ・原因
- ・**解決策←ここが主張**
- 事例やデータで説明が必要
- 情報の収集
- ・効果

写真2：見やすいスライドを作るための資料

2. 提言書の交流（本時）

（1）小学部3・4年生

3・4年生合同で提言交流会を行った。3年生16名に対して4年生は34名と在籍者数に開きがあるので、4年生は半分が前日にクラス内で発表を行い、残りの半分と3年生が当日発表を行った。3年生は先述したように3～4人で1つのグループを作り全部で5グループあるので、各グループに4年生が3～4人入り、合計6～7人で2つの教室に分かれて発表会を行った。始めに先で述べた話し手と聞き手それぞれのめあてを提示し、提言フォーラムに向けてお互いの提言の質を高めることを確認した。発表を終えるごとに付箋に感想や疑問、アドバイス等を記入し、発表者に渡した。書き表すのが難しい児童や直接説明したい児童は進んで発表者にアドバイスを送る姿が見られた。交流会後の感想には、「4年生は一人でスライドを作っていてすごいと思った」「3年生の疑問は今まで思いつかなくて、なるほどと思った。自分の提言に生かしていきたい」といった記述が見られ、提言フォーラムに向けて実りのある交流会になった。



写真1：発表の様子



写真2：アドバイスや感想を書いた付箋を渡す①



写真3：アドバイスや感想を書いた付箋を渡す②

(2) 小学部5・6年生

提言書の交流は5・6年生合同で行った。聞き手と発表者にそれぞれめあてをもたせ、取り組ませた。聞き手の際は、「相手の発表を深める視点で、意見交流をし、意見や質問を積極的に伝える。」発表者の際は「自分の提言について新たな課題を発見する。」ということである。そのことで、発表後活発な意見交流会ができた。また、質問するだけでなく、自分の意見を述べた上で相手の考えを聞くなど、積極的に交流会が行われたことにより、発表者にとって新たな課題の発見の場になった。5分の交流会はあっという間に時間がすぎ、発表者にはびっしりと書かれた付箋が手渡された。その付箋をじっと見つめ、次の課題に向けて、提言書の内容や構成を再度練り直していく。5・6年生が一緒に学ぶことで、子供たちには新しい視点が加わり、より一層視野の広がりや深まりが実感できたようだ



写真4：提言書発表の様子



写真5：付箋に意見や感想を書いて交流

成果と課題

(1) 成果

- ・オリンピックについて実際の運営に携わった方や、オリンピック出場選手にオンラインでの講演をしていただいたことで、オリンピックをより身近に感じることができた。そのため、多くの児童が提言書の作成の際に、具体的な考えやアイデアをもち、探究する意欲を高めることができた。
- ・学びの地図の作成は、聞いた内容を整理したり、自分がどのように考えたかメタ認知したりするツールとして探究学習以外の学習でも活用できるようになった。
- ・提言書作りの前段として新聞作成を設定したが、児童は国語の学習を通してこれまで新聞を作成してきたので取りかかりやすく、「得られた情報を取捨選択し、それらを基に自分の考えを表現する」という流れをつかむのに効果的だった。
- ・各教科と関連づけて、提言書の作成や発表を行うことができた。特に、国語の学習において、「資料の効果的な使い方」や「説得力ある意見文を書く」の単元とは直接関わりがあり、国語の学習で学んだことを探究の学習に生かすことができた。
- ・隣接学年の児童との交流により、それぞれの考えを聞くことができ、多様な考えを聞くことや、論理的な考え方で意見を組み立てる仕方を学ぶことができた。また、よりよい考え方に導く意見も多く発表され、発表者の考えや話し合いが深まる場面が見られた。
- ・得られた情報や考えを分かりやすくスライドにまとめたり、聞き手を意識しながら話したりするプレゼンテーションのスキルが、今回の探究学習を通して身に付けることができた。

(2) 課題

- ・児童は家庭でもインターネットを使って調べたりスライドを作成したりするので、学校のみならず家庭でも情報機器が整った環境があることが望ましいが、現実的には現状では難しい。
- ・探究における児童一人一人の個別指導が行き届かないのが現状。
- ・総合的な学習の時間と、各教科との横断的なカリキュラムマネジメントを常に意識していないと授業時数が足りなくなる。

ホワイトボードミーティング®の実践

ファシリテーションの技術の一つであるホワイトボードミーティング®を授業で活用し、実践することで、児童生徒の「対話を育み」、「思考を深め」、自己を「振り返り」、学びを「共有」し、「承認し合う」関係作りを進めたいと考えた。

また、職員研修を実施し、ホワイトボードミーティング®を気軽に学ぶ機会も設けた。

ホワイトボードミーティング®とは

ホワイトボードを活用して進める会議や話し合いの方法である。進行役のファシリテーターが話し手の意見をホワイトボードに書くので、何を話し合っているのかが明確になり、効率的、効果的に会議や話し合いが進む。2003年にちょんせいこ氏（株式会社ひろまち）が開発し、教育現場はもとより幅広い分野で取り組まれている。

〔小学部〕

9月2日 1年図工

夏休み明けの最初の図工の授業。ミニホワイトボードに、「夏休みに食べたおいしかった食べ物」を一つ描く。全員が描き上がったところで、全員で見合う。次に、隣同士のペアで描いた絵について説明し合う。その後、テーマを「夏休みの思い出」にして、もう一度同じような流れで行う。児童が、自分の描いた絵を通して対話する機会を設けることで楽しそうに話したり聞いたり姿が見られた。



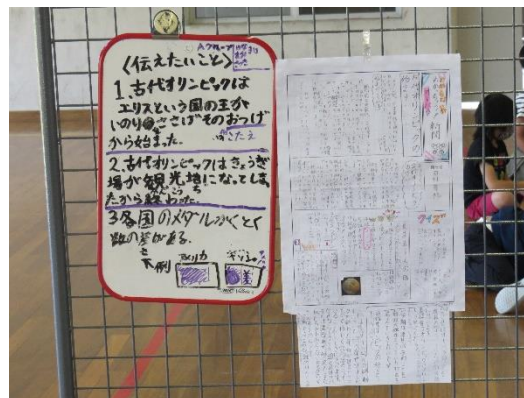
9月22日 3・4年総合的な学習の時間（新聞交流会）

新聞交流をする際に、自分が伝えたいことの要点をミニホワイトボードに記載した。

自身が作成した新聞の紹介をする際、新聞の記事をそのまま読み上げてしまうことがあり、何を伝えたいのかが話している方も、聞いている方も見失ってしまうことがある。

今回、伝えたいことを絞り、ミニホワイトボードにそのことを記載したことで、互いに話すポイントや聞くポイントをおさえることができた。聞く側が質問する際も、発表者が伝えたい内容に沿って質問し、交流が深まった。話しの中心がはっきりとし、時間の短縮にもつながっている。

子供たちは、整理して話すことができ、聞く側も聞きやすかったと感じていた。



11月20日 6年生図工（土曜参観）



シュルレアリスムの絵画を鑑賞後、題材「不思議な絵」の構想から下絵の段階に制作に入ったところで、『ホワイトボード質問の技カード』を使って、ペアで対話の場面を設け、今までの自分の制作を振り返り、これからの制作のめあてを決める。制作に入ると黙って熱心に取り組む児童が多いので、対話活動を意図的に取り入れることで、自分の思いや課題をはっきりさせて製作活動に弾みをつけることができた。また、土曜参観であったので参観に見えた保護者の方にもペアで対話していただき、場がとても和んだ。

[中学部]

9月7日 1・2・3年 総合的な学習の時間（新聞交流）

各学級をグループに分け、他の学年と交流会を行った。

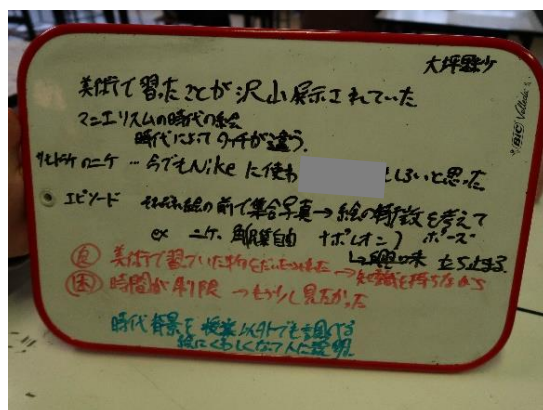
オリンピックについて情報交流をしながら、自身が調べ新聞に記載したことを伝えていく。

聞く生徒は、自分のミニホワイトボードに気になった点や自分の考えをメモしていく。その後のディスカッションにおいて、ミニホワイトボードに記載したことをもとに、話し合いに臨んだ。話し合い（新聞交流）では、発表者の様々な情報や他の聞き手の考えなどが多く出され、多様な展開に話し合いが進められる。そんな中でも、自分のメモした内容と比較しながら、自身の考えをしっかりと進められた。



11月25日 3年美術

ルーブル美術館社会見学の振り返りをホワイトボードミーティング®定例進捗会議のフレームワークで行った。ペアになり交代でインタビューし合う。まずは、「ルーブル美術館の社会見学どうだった？」と聞き、聞き手に4分間、発散したことを黒のマーカーに書く。その後、赤のマーカーで、良かったこと、困ったことを1つずつ聞いて書いていく。そして、これから学びをどう生かしていきたいかと聞き、青のマーカーで書く。最後にインタビューしたことを読み上げる。終了後、全員でホワイトボードを見合う。社会見学をしっかりと振り返り、友だちの考えや意見を聞きながら聞く様子も見られた。



【職員研修】

教育×ホワイトボードミーティング®気軽な勉強会

12月27日,28日,1月4日,5日 10:00~11:45 計5回

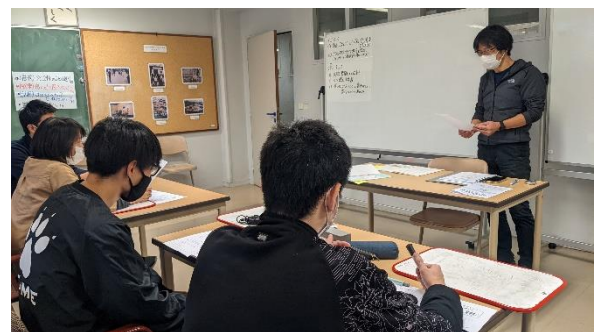
参加職員：冬期休業中の中、参加可能な方

内容：

ホワイトボードミーティング®の基本的な考え方、ペアコミュニケーション、ミニホワイトボードで意見表明、オープンクエスチョンで聞いてみよう
オープンクエスチョンの仕組み、私の構成要素、定例進捗会議、実践事例紹介 など

参加者の感想より：

- ・話し合いも練習をしなければ深まるところへおもっていけないんだと感じた。
- ・人の話を傾聴するということの重要性がよく言われるが、「オープンクエスチョン」や「あいづちのことば」だけを使うことが、相手の話を引き出すことが分かった。
- ・ホワイトボードミーティング®は、話していることの内容が整理されていき、承認欲求が満たされる面もあるように思った。汎用性の高い指導方法だと思う。
- ・集団や個人をマネジメントする上で重要な要素が含まれていると感じた。現状や実情を表出する技術、具体的なエピソード、良い点や困った点、今後の方針などを見通す視野などは、様々な場面で必要な要素だと思いました。



ホワイトボード・ミーティング しつものわざカード

オープン・クエスチョンのことば

考えを広げ、ふかめるためのしつもん

- ①～という？
- ②どんなかんじ？
- ③たとえば？
- ④もう少し詳しく教えてください。
- ⑤ぐたいてきにどんなかんじ？
- ⑥どんなイメージ？
- ⑦エピソードを教えてください。
- ⑧何でもいいですよ。
- ⑨ほかには？

あいづちのことば

- ①うんうん。
- ②なるほど、なるほど。
- ③わかる、わかる。
- ④そうなんだあ。
- ⑤へえ〜。
- ⑥だよねえ。
- ⑦それで、それで。
- ⑧そっかあ。

クローズド・クエスチョンのことば

はっきりと聞くためのしつもん

- 数字（何月、何日、何円、何回など）
- 名前（人の名前、ものの名前、場しよの名前など）

じこせんたく、じこけつていを聞くためのしつものわざ

- ①どうしたい？
- ②どうなったらいいと思う？
- ③この中のどれだと思おう？

＜ペアで聞きながら書く活動＞

慣れてきたら、ホワイトボード・ミーティングの話し合いのサイクル「発散（黒）→収束（赤）→活用（青）」にもチャレンジします。

- | | |
|--------|-------------------------|
| ○発散（黒） | テーマにそって情報を広げ、深める（3〜4分） |
| ○収束（赤） | 軸を決めて話し合いを構造化する（30秒〜1分） |
| ○活用（青） | 具体的な行動計画や結論、伝えたいこと（1分） |

● ペアでやってみよう！目的に応じて、相手を変えて積み重ねます。

①社会科学の新聞記事を考えよう

発散（黒）「社会科学で見たこと、学んだこと、発見したことは何？」
収束（赤）「特に印象に残ったことは？」
活用（青）「これからどのような話かしたい？あるいは見学先のみなさんへのお礼の言葉」

②自分のことを知ってもらおう！友達のことを知ろう！

発散（黒）「最近チョット、がんばっていること」
収束（赤）「その中でも大事にしていること」
活用（青）「これからどうしたい？どうなったらいいと思う？」

③お悩み相談室

発散（黒）「最近、悩んでいることと言うと？」
収束（赤）「その中でも、特に困っていること」
活用（青）「これからどうしたい？どうなったらいいと思う？」
終了後にファシリテーター役からアドバイス

令和3年度 探究「今とオリパラとわたしと未来」
～ 提言フォーラム 中学部内事前交流 ～

1 ねらい

○ ④協調性・柔軟性：

- ・発表者の提言の意味を理解し、相手の考えを生かしながら提言が深まるように自分の考えを伝えたり、質問したりすることができる。
- ・他者との違いを受け入れ、建設的な話し合いや交流ができる。
- ・色々な場面に臨んでその変化に応じて適当に対応することができる。

○ ①語学力・コミュニケーション力

- ・「根拠」を示しながら自分の伝えたいことを相手に「正確に」「効果的に」伝えることができる。
- ・周りの雰囲気を感じる、物事を見るなどでその意味を推し測ったり、相手の協力を得たりすることができる。

○ ③チャレンジ精神

- ・新たな仮説をたて、検証し、今後の生活に役立てることができる。

○ ⑧深い専門性

- ・自分の興味関心の特定の分野について深く追求し、知識・理解を深めるとともに、自身の考えをもつことができる。

○ ⑨課題発見・解決能力

自分で疑問を見出しつつ、探究のテーマを設定し見通しを持つことができる。

○ ⑩チームワークとリーダーシップ

- ・課題解決にあたってそれぞれの立場や考え方を尊重し合いながらチームで対応することができる。
- ・明確なビジョンと目標を示し、周囲の状況や現状を把握しながらフォローしていくことができる。

○ ⑫メディアリテラシー

- ・メディアの機能を理解するとともに、分析評価し、創造的に自己表現することができる。

2 準備物

教師：PC モニター（プロジェクター） ストップウォッチ

生徒：発表用パワーポイント用データ 振り返り用ワークシート 筆記用具

個人用ホワイトボードセット

3 学部内新聞交流タイムスケジュール

13:15 各教室に移動する。

13:20 担当（教師）から指示を出す。 発表時の司会を確認する。

13:30 発表を開始する。

発表（1人5分以内） ＋ 話し合いの時間（7分） ＋ 担当から指導講評（1分）
＋ 個人振り返り（2分） ＋ 切り替え（1分）

16分×5人＝80分

※発表の終わったグループは、自分の発表や助言をまとめる。

14:50 担当から総評（発表の様子を見て総括）

14:55 各教室で、自分の発表や助言をまとめる。今後探究する内容を検討する（各教室で実施）。

15:05 解散

4 当日の指示

- 役割 ⇒ 総合実行委員が中心となり、司会を行う。
- 時間 ⇒ 発表（1人5分以内）＋ 話し合いの時間（7分）＋ 担当から指導講評（1分）
＋ 個人追求ワークシートにまとめる（2分）＋ 切り替え（1分）
- 発表を聞く視点
 - ・発表者の考えが深まるようにする（視点をもって聞く）
⇒ 発表者の話の中心を意識して聞く。発表者は何を伝えたいかを考えて聞く。
 - ・自分の「提言」につながるように聞く。
⇒ 自分の提案や興味のあることとつなげて聞く。
- 話し合いの視点
 - ・交流（話し合い）の前に振り返り時の視点を確認する。
 - ・新たなものの見方や、多様な捉え方ができるように、各自が調べてきた分野をもとに、感じたこと、さらに聞きたいことを積極的に聞く。
 - ・話題をつなげたり、切り替えたりして深める（発言者の考えも聞く）。
司会者の取り回しの中で、対話形式の話し合いにする。（グループ全員に司会の）
 - ・前の発表者や身近なこととつなげ、共有できる話題を提供する。
- 振り返りの視点
 - ・ワークシートの「相手の発表を深める視点」（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）と「自分の生き方を見つめる視点」（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）を基に、毎回の発表ごとに振り返りを行う。
 - ・発表者も自分自身の発表や交流（話し合い）を振り返る。

5 提言フォーラムまでの流れ

<学部内交流>

1月17日（月）5，6校時

- 学部内のグループ（4～5人）で発表を行う。
 - ・1グループに1年生（1～2人），2年生（1～2人），3年生（1人）が入り，計4～5人で編成
 - ・グループの構成は，テーマ（分野）を考慮し，できるだけ違う分野で編成する。
⇒ 話し合いを通して，テーマや提言内容を様々な視点から考えられるようにする。
 - ・発表を聞く生徒は，ホワイトボードに発表において興味をもったこと，気になったこと，もっと知りたいことなどをメモし，発表後の話し合い時に活用する。
 - ・担当者（教師）は，聴衆として話し合いを聞く（場合によって話し合いを促す）。
個人の振り返りの前に，話し合いの視点や提言者へのアドバイスなどを伝える。
 - ・毎発表の最後に，「相手の発表を深める視点」（発表に対しての気づき，助言など）
「自分の生き方を見つめる視点」（探究する視点，考え方，提言の手段など）で，個人で深める。

<個人振り返り・追求>

1月18日（火）～

<提言フォーラム1>

2月2日（水） 中学部全生徒（個々）による小中学部合同グループでの発表

<提言フォーラム2>

2月9日（水） 学年代表者1名によるパリ日本人学校全体での発表

<個人振り返り>

2月9日（水）～ 次年度に向けての考察，振り返り

6 グループ ※中1は学級閉鎖のためグループ数、メンバーを変更

様々なテーマが入り、異学年を混ぜたグループ構成にすることで、探究テーマや発達段階の違いから生じる新たな探究の視点を共有し、多面的に考え、多角的にディスカッションしたりできるようにする。

教室	1 A 教室	2 A 教室	3 A 教室
担当	研究主任		
	教師 1	教師 2 教師 3	教師 4 教師 5
メンバー	2 A 男④	2 A 女	2 A ④
	競技：オリンピックの競技について	差別：オリンピック・パラリンピックと差別	環境：未来のオリンピックに向けて
	2 A 男	2 A 女④	2 A 男
	他：オリンピック改革	他：世界のあり方	他：オリンピックを世界からなくそう！
	2 A 女	2 A 男	3 A 男
	環境：地球と人に優しいオリンピック	感染対策：パリオリンピックをするために	経済：オリパラと経済問題
	3 A 女	3 A 女	3 A 男
	差別：パリオリンピック・パラリンピックでの差別・偏見	環境：新たなゴミ箱	差別：オリンピックにおける障がい者と健常者の区別をなくす
		3 A 女	
		長期欠席	

7 司会の流れ

- 「これから提言フォーラム学部内交流を始めます。」「●●さん、発表をお願いします。」（5分以内）
- 「質問や感想、意見やアドバイスをお願いします。」（7分）

※発表が終わったら、すぐに次の人の発表に移らず、話し合いを深めたり、広げたりするために次のような言葉を投げかけてみましょう。

例：「皆さんはどう思いましたか。」「●●さんはこれについてどう思いますか。」 など

質問の技カード	
考えを広げ、深めるための質問	相づちの言葉
① ～ということ？	① うんうん。
② どんな感じ？	② なるほど、なるほど。
③ 例えば？	③ わかる、わかる
④ もう少し詳しく教えてください。	④ そうなんだあ。
⑤ 具体的にはどんな感じ？	⑤ へえ～。
⑥ どんなイメージ？	⑥ だよねえ。
⑦ エピソードを教えてください。	⑦ それで、それで。
⑧ 何でもいいですよ。	⑧ そっかあ。
⑨ 他には？	

- 「ありがとうございました。●●先生お願いします。」（1分）
- 「ありがとうございました。」 「視点に則って、振り返りをしましょう。」（2分）
- 「以上で●●さんの提言発表を終わります。ありがとうございました。（拍手）」
- 「次の発表の○○さん準備をお願いします。」（1分）

～ R3提言フォーラム学部内交流 ～

年 A 組 番 名前

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つける視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つける視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つける視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つける視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

発表者	タイトル
相手の発表を深める視点（発表者の提案や主張に対して議論になったところなど）	
自分の生き方を見つける視点（自分の今後の発表に生かしていきたい視点、考え方、ものの捉え方など）	

自己の振り返り（交流を通して考えたこと、今後深めていきたいこと、提言書作成に向けて考えたことなど）	
---	--

～自由メモ～	
--------	--

フラワーレーンプロジェクト

TOKYO ⇒ PARIS

1 目的

- ・東京オリンピック・パラリンピックの精神や思いを引き継ぎ、フラワーレーンプロジェクトの取り組みを通して、日本人としてそのよさや思いをパリオリンピック・パラリンピックに引き継ぐ。
- ・栽培活動を通し、朝顔を育てる、命の大切さと感じ取らせる。
- ・本校で取り組む探究的な学びの中に位置づけ、活動を通して、探究で身に付ける能力や力を身に付ける。
- ・全校的な取り組みとして、再来年度迎える50周年記念と絡めて、パリ日本人学校より発信の営みとする。

2 内容

- ・東京オリンピックで実施されたフラワーレーンプロジェクト（朝顔を育て、朝顔の花大会会場等で飾り、子供たちの栽培活動及びオリンピック・パラリンピックを支援する心情を形に表した取り組み）を引き継ぎ、パリ日がホスト役として、パリオリンピック・パラリンピックに引継ぎ、日本でオリンピック・パラリンピックでの思いを引き継ぎ、日仏の友好を背景にパリオリンピック・パラリンピックへとその活動を引き継ぐ。

3 方法と方向性

- ・日本のフラワーレーンプロジェクトより朝顔の種（戸籍をもつ種、検疫を受けることを条件）を受け継ぎ、その精神をパリ日発として発信していく。
- ・種を引き継ぎ、校内で全校児童生徒がポットを使い、一人一ポット栽培する。朝顔の苗を収穫する。また、芽が出て、苗となったポットを配布する。または、採れた種を配布する。
- ・親善大使方式をとり、教職員・児童生徒を任命していく。（FLPから発信）
- ・種の受け渡しには、調印式を行い、意味づけ・価値づけをする
- ・研究部を中心としてプロジェクトの推進にあたる（児童会・生徒会とも連携）
- ・フラワーレーンプロジェクト実行委員会を発足し中心として企画・運営する。

予想される活動

- 土づくり、栽培計画
- 子供たちがメッセージカードを作成する
- 種を、地域・関係諸機関にメッセージを添えて配布する
- 朝顔を開催の会場に置くように依頼する
- 寄付金を集める
- ・継続して引継ぎを行えるよう、教頭先生を中心として窓口となり、日本との連絡調整にあたる。
- ・土づくり栽培のアドバイザーとして、山下農園の山下さんにご協力をお願いする。

4 発信とその対応について

- ・ホームページに、本プロジェクトのコーナーを作り、随時更新し、その活動経過を発信していく。
- ・日本人会のホームページにアクセスホームをお願いする。
- ・オリンピック組織委員会との連携を保ち、メディアへの配信には協力する。

事前説明会資料（全校集会にて事前説明会開催）

9月27日 事前説明会
— 今とオリハラとわたしと未来 —

フラワーレーンプロジェクト
TOKYO PARIS
パリ日本人学校

日本での取り組みの様子

約300校の児童生徒が朝顔を育て、鉢の数、約3300鉢が大会会場に届けられました。

朝顔の花言葉は「結束」

日本での取り組みの様子

おもてなしの気持ちや、コロナ禍で大会を見られなくなった子供たちの「夢も託された朝顔」です。

国内外の多くの選手に、笑顔や感動を与えました。

その他、どのような取り組みをしたのかは、自分で調べたり、想像したりしてみてください。

役割を終えた、朝顔はそれぞれの学校に戻されると、その朝顔は実をつけていました。

その実からとれた、朝顔の種の一部が・・・

日本から朝顔の種が届きました

東京大会に参加した記念の種

植物検疫証明書

パリ日本人学校の児童・生徒・教職員は東京オリンピック・パラリンピックで使用された日本固有種の朝顔を引き継ぎます。

全員が親善大使として任命され、2024年パリオリンピック・パラリンピックまでの3年間、活動を継続していきます。

そこで、パリ日の方々と、今後どのような活動ができるのかを考えていきます。

まとめ役として、「フラワーレーンプロジェクト実行委員」を各学級より2名選出します。

水曜日までに出発し、その後、実行委員会開催

日本から引き継いだ「朝顔の種」を、親善大使であるパリ日の児童生徒一人一人が、「種をどのように活用していけるか」、「どのような取り組みをしたいか」など、たくさんのアイデアを出し合います。

10月6日（水） 1時間目
調印式 & 任命式
8:45～9:30（日本時間15:45～16:30）
内容は多岐にわたります

- 日本とZoomでつなぎ、水野先生からのお話（2分）
- 大会組織委員会の方のお話（15分）
- 調印式（3分）
- 親善大使任命式（3分）
- 実行委員長の挨拶（3分）
- 校長先生のお話（3分）
- 全校写真撮影（6分）

東京オリンピック・パラリンピックの思いを引き継ぎ、

皆さんの力でパリオリンピック・パラリンピックをより盛り上げていきましょう。

事前説明会后、小学部1年生～中学部3年生より、各2名ずつ代表を選出し、フラワーレーンプロジェクト実行委員を発足。今後の活動の見通しについて、話し合いを行った。

予定

- ・東京とパリをつないで引継を兼ねた調印式・任命式
- ・実行委員としてどのような活動ができるか検討
- ・全校児童生徒へのアンケートと集約



フラワーレーンプロジェクト実行委員

10月6日 フラワーレーンプロジェクト 調印式・任命式

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会警備局・小島良一様に概要説明をしていただき、調印式・任命式を行った。今後、パリオリンピック・パラリンピックまで継続した活動が行われていくことになる。



今後の活動について実行委員会が集約したアンケートより取り組みを検討していきたい内容



○2022年の春は引き継いだ100粒種を育て、秋にはたくさんの種の収穫が予想される。

- ・一部は次の2023年に育てるための種とする。
- ・それ以外は、資金を調達するために種を販売し、土や鉢などを購入する資金に充て、同時に育ててもらい朝顔の輪を広げていく。

○メッセージカードを毎年在籍する児童生徒で書き、ためておく。

○朝顔の花を押し花やドライフラワーにして、メッセージとともに選手に贈る。

○2022年・2023年の3年間で種をたくさん集めて、メッセージとともに、種を選手に贈る。

○朝顔の花で文字をつくり、会場に掲示

○パリ日に近い会場や選手村にメッセージ付きのフラワーレーンで飾り、選手をもてなす。



パリ日提言フォーラム①②



(パリ日提言フォーラム② 全校集会・低学年発表の様子)

1 パリ日提言フォーラム(生きる力とは何かを考える)

育成するグローバル人材要素

- (①語学力・コミュニケーション力 ②主体性・積極性 ③チャレンジ精神 ④協調性・柔軟性
⑤責任感・使命感 ⑥異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ ⑦幅広い教養
⑧深い専門性 ⑨課題発見・解決能力 ⑩チームワークとリーダーシップ ⑪公共観・倫理観
⑫メディアリテラシー)

パリ日提言フォーラムは、1年間の取り組みのまとめとなる。各学年、また個々によってねらいとする「育成するグローバル人材の要素」は変わってくるが、基本的には全ての要素が含まれていると考える。

パリ日提言フォーラムを通して、各ブロック(低・中・高・中学生)の概念やキーワードをもとに、様々な捉え方や考え方を通して、周囲との関係性や自己の生き方を考える場とした。さらに、自身の成長を実感し、新たな課題や目標を発見できる場となる。人が生きる意味を何に見出し、よりよく生きるために今をいかに生きるべきかを考えさせるために、「自己の生き方を考えることができる」「何をするべきか・何ができるか・何を優先するべきか」と思考する力の育成をめざした。

今年度はオリンピック・パラリンピックを大テーマとしたが、多様な提言が見られ、活発な意見交換が行われた。

2 パリ日提言フォーラム①での具体的な様子

パリ日提言フォーラム①では、小学部3年生が小学部1・2年生に対して提言発表を行った。3年生は、同じ方向性で解決策や提言を考えた2～4人組の5つのグループが作られた。1・2年生に、分かりやすく説明するために、しっかりとわけをそえて話し、より具体的な方策を示す姿が見られた。ときには、クイズを取り入れた参加型の提言を行うなどの工夫をし、興味関心を高めた。提言までの準備に様々な話し合いが行われてきたことが垣間見られた。1・2年生は、積極的に質問を出す姿が見られた。どのように解決していけばよいかなど、1・2年生もともに考え、建設的な交流が進められた。また、3年生が発表する姿を見て、今後の自分たちが行う活動を知る機会となった。

パリ日の考えるグローバル人材の要素				
		1～3年	4～6年	中学部
① 語学力・コミュニケーション力		日本語でも外国語でも自分の名前などの簡単な自己紹介で相手に伝えることができる。	日本語でも外国語でも自分の気持ちや相手に伝えることができる。 「書く」「話す」などの手段を用いて、自分の伝えたいことを相手に「正確に」「効果的に」伝えることができる。	異文化を超えて対話し、行動することができる。 「聴く」を示しながら自分の伝えたいことを相手に「正確に」「効果的に」伝えることができる。 相手の意図を感じ、物事を見るなどでの意味を感じ取り、相手の意図を汲み取ることができる。
② 主体性・積極性		自分の役割や状況を考え、探索したり、疑問をもったり、質問したりし、意思に基づいて責任をもって行動することができる。	自分の興味関心のある事柄を実現するために、試行錯誤を繰り返しながら、予測を立て、成果に向かうことができる。	自分の役割や状況を考え、探索したり、疑問をもったり、質問したりし、予測を立てながら、今後の変化を確かめるための目的をもって行動することができる。
③ チャレンジ精神		進んで聞いたり、体験したりし、自ら目標をみつけて行動していくことができる。	進んで新しいことに挑戦し、目標に向かってはばり強く取り組むことができる。 新たな仮説を立て、確かめることができる。	困難な問題や未経験のこと、未知の分野に対しては可能性を探り、好奇心をもって挑戦することができる。 新たな仮説を立て、検証し、今後の生活に役立てることができる。
④ 協調性・柔軟性		友達と協力して活動できる。 互いの違いを認めることができる。	友だちの意見の意図を理解し、さまざまな立場や考えを理解し、共感できる。 場に応じて柔軟に変化し行動し、分析することができる。	他者との違いを受け入れ、建設的な話し合いや交流ができる。 責任をもって最後までやり遂げることができる。
⑤ 責任感・使命感		自分でやらなければならないことは、しっかりと行うことができる。 途中であきらめずにやり続けることができる。	与えられた役割の意味を理解し、粘り強く、最後までやり遂げることができる。	自分の役割の必要性を認識したうえで、責任をもって最後までやり遂げることができる。
⑥ 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ		フランスと日本の生活習慣や文化について知る。	フランスや諸外国、日本の文化の良さや良さを理解し、互いに尊重しながら交流することができる。	日本の文化を深く理解したうえで、異文化に興味をもつとともに理解し、その良さや面白さ、考え方の違いを認め、互いに尊重し、理解し合うことができる。
⑦ 幅広い教養		新しいことへの興味をもったり、これまでの学習と現在の学習を関連付けたりすることができる。	創造する力や心の豊かさ、物事に対する理解力を高めようとし、自主的に様々な分野の知識を広げられる。	もっている知識と新しい知識を比較しつづ、つなげて考え、意味を理解することができる。 社会生活や学習上で必要な広い知識と教養を蓄え、幅広く具体的に追求することができる。
⑧ 深い専門性			興味関心をもった分野について深く追求し、知識・理解を深めることができる。	自分の興味関心のある特定の分野について深く追求し、知識・理解を深めるとともに、自身の考えをもつことができる。
⑨ 課題発見・解決能力		身の回りのことや課題に対して、問題点を見つけ、それを解決しようとするることができる。	課題に対する自分なりの意見や考えをもち、工夫・整理しながら解決策を考案することができる。	自分で疑問を見出しつづ、探究のテーマを設定し見直しをもつことができる。 課題を分析し、目的や課題を多様な方法で明らかにするなど、常に問題意識をもち、課題を解決するための手段を見つけ、提案・実践できる。
⑩ チームワークとリーダーシップ		仲間と協力し合いながら、グループ活動ができる。	目標を達成するために、仲間と力を合わせて行事や様々な活動に取り組み、チームメンバーで役割を分担して協働することができる。	課題解決にあたってそれぞれの立場や考え方を尊重し合いながらチームで取り組むことができる。 問題や状況と目標を示し、周囲の状況や現状を把握しながらフォローしていくことができる。
⑪ 公共観・倫理観		物を大切にし、きまりを守って活動できる。	学校生活や課外活動などで善悪を正しく判断し、その場に応じた行動をとることができる。	国ごとに公共観・倫理観が異なることを知り、日本人としてあるべき公共観・倫理観を理解することができる。
⑫ メディアリテラシー		自分に必要な情報を、教師や保護者、コンピュータや図鑑などを活用し、収集できる。	メディアから得られる情報を正しく選択し、その場に応じた力で行うことができる。	メディアの機能を理解するとともに、分析評価し、創造的に自己表現することができる。



小学部4年生～中学部3年生は1グループ9～10人の10グループに分かれ、縦割り班交流を行った。一人10分程度の持ち時間で5分程度の提言と5分の交流としたが、質疑応答時間が足りなくなるほど、活発な意見交流が行われた。中学生の進行役となり、自分たちで運営を行った。

同じグループの中に全く逆の考え方をする提言内容が複数のグループで見られた。例えば、環境への配慮から、新たな建築物は作らず現存するものを有効利用するといったものに対し、新たな設備を考えることで、その国に富みがもたらされ、生活が豊かになるといったものがあつた。他にも、経済優先か環境優先かで考え方が分かれ、また、男女の力の差を考えながらいかに公平・公正を保つかといった提言に対して、性そのものを見直した開催が可能なのではないかといった提言もあつた。子供たちは、お互いの考えを認めつつ、ときには批判的・批評的な思考をもちながら解決策を見出す姿が見られた。



3 パリ日提言フォーラム②での具体的な様子

パリ日提言フォーラム②では、小学部1・2年生が生活科「へ～んしん」の学びの様子を全校児童生徒に向けて発表した。四季の変化についてを具体的に、植物や動物の変化、風の冷たさや温度の変化だけにとどまらず、町を歩く人の人数や格好の変化など、様々なことに目を向け発表した。見てきたことや感じたことからさらに探究し、疑問に感じたことや不思議だと感じたことを追求して調べたことで、新たな発見も多くあり、興味深い内容が紹介された。

低学年発表後は、小学部3年生～中学部3年生までの各学級1名が全校児童生徒に向けて提言発表を行った。提言フォーラム①と同様に一人の発表時間は5分程度としたが、交流時間は学年に応じて、15分で計画した。しかし、それでも途中でまとめていかなくてはならないほど、質疑応答が活発に行われた。提言する側も質問する側も根拠をしっかりと示しながら話していたので、大きく考え方が変わったり、考えが確信になったりと、今後の生き方を考える上での、大変充実した提言フォーラムとなった。



4 成果

- ①様々な意見交流が行われたことで、どのように人や社会、世界、自然などに関わり、自らの生活や行動について見つめ、よりよい人生を送るか考えるといったビジョニングをすることができた。
- ②東京からパリといったオリンピック・パラリンピックのつながりを意識した提言が行われ、地域を大切にし、地域に貢献しようとする態度を養い、社会の一員として何ができ、何をすべきかを考えることができた。
- ③「今とオリパラと私と未来」のテーマにそって、今を知るために過去の歴史や経過を調べたり、現在できることや将来について真剣に考えたりし、学ぶことの意味や価値を知り、生きがいのある生活を実現していこうとすることができた。
- ④考えを伝え合ったり、肯定的な考えや批判的・批評的な考え方で物事をとらえたりし、さらなる考えや意見を深め、学習に対する有用感を得て、学ぶことの大切さと意味に気づくことができた。
- ⑤自分のよさや可能性に気づき、自己の振り返りや生き方につなげていくことができた。



2月7日（月）パリ日提言フォーラム①

日程 10：55～12：30 低学年グループ（大体育館） 3年生発表（1・2年生が質問・感想） 担当：阪田 t・原田 t・袴塚 t

グループ① 選手村を改善して、選手を喜ばせよう グループ② 美しいパリの街にするために

グループ③ セーヌ川クリーン大作戦 グループ④ 選手のためにできること

グループ⑤ 世界のゴミを減らそう

11：45～15：00 分科会（小4～中3） 各教室

グループ		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
教室		図工室	総合教室	旧4年1組	視聴覚室	5年1組	6年1組	1年A組	2年A組	3年A組	中理科室
全体		水野 t									
担当		長谷川 t	其田 t	教頭 t	手塚 t	夫婦岩 t	貴島 t	鈴木 t	藤井 t	石黒 t	志賀 t
提言内容	小4開催国の選定	小4施設の再利用	小4競技の再考	小4環境破壊と対策	小4ドーピング対策	小4ドーピング対策	小4お金問題	小4英語村	小4地域対抗戦	小4リアルタイム翻訳アプリ	小4作業員の増加
	小4刑事ロボット	小4なくせドレーピング	小4ドーピングの恐れ	小4会場継続利用問題	小4ポイントで環境改善	小4排水システム	小4排水システム	小4コロナのルール	小4地球に優しいメダル	小4秋開催	小4都市鉱山の再認知
	小4大量ゴミ問題	小4eスポーツの採用	小4一瞬判定募金システム	小4資材の再利用	小4募金100円	小4メダルの価値	小4メダルの価値	小4環境に優しいメダル	小4募金犬	小4開催地決定方法	小4石メダルの作成
	小4メダルのデザイン	小4コロナ対策バリア君	小4選手強化作戦	小4オリンピックと戦争	小5音力発電	小5リサイクル	小5リサイクル	小5食品ロス	小5国際交流	小5自転車発電	小5 V R 化
	小5見守りロボット	小5 家車	小5植物カー	小5フィットネスバイク発電	小5水陸両用バス	小5持ち運びゴミ袋	小5食品安全	小5食品ロス	小5環境	小5食品ロス	小5声発電
	小5自家発電バイク	小5交流テレビ	小5自家発電観客席	小5 3学期転入	小6安全対策	小6施設の再利用	小6施設の再利用	小6コロナ対応	小6ポイ捨て対応	小6競技の安全化	小6選手の安全保障
	小6多言語対応	小6ゴミと経済	小6二酸化炭素の活用	小6危険防止	小6ゴミ問題	小6アバターで観戦	小6アバターで観戦	小6公平・公正	小6リサイクル	中1夏冬同時開催	中1国民選挙
	中1環境への配慮	中1コスチューム	中1施設再利用	中1開催方法	中1清掃マシン	中1 3学期転入	中1 3学期転入	中2性とスポーツ	中1ピクトグラム	中2交通網の発展	中2人種差別の撤廃
	中2環境に優しいオリパラ	中2開催手段と方法	中2競技種目の改変	中2複数都市開催	中3障害者との融合	中2アスリートファースト	中2アスリートファースト	中3コロナ対策	中2開催のあり方	中3環境への配慮	中3経済問題と再利用
	中3ジェンダー意識	中3ゴミ箱のデザイン化	中3人種差別問題	中3三位一体の連携対策		中3マイボトル運動	中3マイボトル運動		中3ゴミ0への工夫		
一人5分の発表時間＋5分の質問・交流時間											

2月9日（水）パリ日提言フォーラム② 1h～小4h（全校児童生徒 大体育館）

小学部発表司会者…中学部2名 中2〇〇 中3〇〇 中学部発表司会者…小学部2名 小5〇〇 小6〇〇

8：50～8：55	開会式	低学年（1・2年）生活科発表				11：30～	中2代表	性とスポーツ
9：00～9：20		低学年（1・2年）生活科発表				11：50～	中3代表	ゴミ0への工夫
9：30～	小3代表	美しいパリ	10：30～	休憩		12：10～	閉会式	
9：50～	小4代表	作業員の増加	10：50～	小6代表	二酸化炭素の活用			
10：10～	小5代表	音力発電	11：10～	中1代表	ピクトグラム			

5 提言フォーラムの取り組みを終えての感想（抜粋）

- ・普段はあまり考えないような提言や質問で「ギクッ」と思うものがあり、予想していなかったので、「なるほど」と思った。今回の提言フォーラムを将来につなげていきたい。
- ・今までのいろんな「点」を結んで今の形になっていると思うので、私にとってはまだ始まったばかり。するどい指摘に想像力が高まり、新しい目標のヒントをもらい、楽しい提言フォーラムとなった。
- ・いただいたアドバイスや質問をスライドに入れて、もっとよいものを作りたいと感じた。
- ・オリンピック・パラリンピックというテーマに対して多くの問題や見方、考え方があることを知り、興味がさらにわいてきた。世の中の問題や改善点を知ることができ、自分ですべきことを考えられた。
- ・緊張したが、昨年のアドバイスをいかしながら提言できたのでよかった。
- ・自分が考えていない質問があり、新たな考え方に気づき、さらに調べてみたいと思った。今回学んだことをこれからの生活に役立てていきたい。自分の提言のよさや改善点にも気づけた。
- ・他学年と意見交流することで、自分の考えがより深まり、よりよいものになると感じ、交流学习の大切さに気づいた。これからも話し合い、自分の考えを深め、広げていきたい。
- ・いろいろな指摘をもらい、さらに自分の思考が広がった。「もっとこうしてみよう」と思ったり、違う視点から見たオリンピック・パラリンピックについて「たしかに」と思ったりした。
- ・自分では考えもしなかった様々な解決策があり、工夫されていた。これらの提言が、これからの世界を変え、よくしていくのだと思う。その一人として頑張りたい。
- ・自分で予想していた質問とは全く違ったものがたくさんきて、新しい問題点が見つかった。それに関しても調べ、さらに考えを深めていきたい。
- ・自分が知らなかったことや考えたこともなかったことが、たくさん提言されていた。いろいろな意見を聞き、楽しく、新たな考え方にはなるほどと思った。また、どうだろう？と思うこともあり、たくさん考えさせられた。提言フォーラムという機会を得て、とてもよかった。
- ・自分の提言をみんなが広げてくれて、とても参考になり嬉しかった。いろんな提言があり、今後活用されていくのはどれだろうと気になった。知識も増え、さらに調べていきたい。
- ・国ごとに文化があり、「世界の文化」について知りたいと思った。フォーラムでは、「自分の意見が全て」ではなく、多様な見方をし、新たな知識が増えた。国や社会でも、互いに尊重し合うことで仲間になるきっかけとなり、よりよい未来が見えてくると感じる。
- ・一つ的话题をみんなでシェアして一緒に考えていくことで、新しい考えが生まれる。それをさらに考えていくことで実際に役立っていくことがあったり、そんな未来になったり。提言フォーラム、楽しかった。
- ・発想やアイデアの生み出し方が様々で、多くの知識を得ることができた。また、自分の提言に対して様々な視点があることを知った。一つのことに對してみんなで意見を出し合い、よい機会となった。
- ・自分の提言に対して理由をもって、説得力があった。分からない言葉に対しての質問ではなく、発表者の提言そのものへの具体的な面を求めている質問が多く、深まっていった。日頃から、多くのことに目を向けることで、今回のような機会に役立つと改めて実感できた。
- ・それぞれの意見があり、考えさせられる時間でした。普段から自分の意見を言えるようにしていきたい。
- ・「環境」という同じテーマをもった提言があったが、全く違う発想・視点でたくさんの解決策があると感じた。金銭面での課題では、募金でまかなうという意見が多かったが、それ以外での手段を議論出来たらさらによかったと思う。
- ・一つの課題を解決すると、新たな問題点が見えてくるので、世の中は難しいなと感じた。様々な意見や考え方があり、そこから見いだす未来を創り上げていきたい。生き方を考えさせられた。
- ・自分の想いを人にぶつけるということは楽しくて、現在実現できないことでも、自分の手で創り上げたいなと感じた。今回のグループ以外の提言も聞きたくなるほど多くの学びのある機会となった。
- ・自分の提言は多くの人が考えるような問題だったが、小学部の人の提言は、型にはまらない独特な提言が多くそういった視点も大切だと感じた。様々な考え方や捉え方が大切だと思う。